

令和7年度

大学院教育学研究科（専門職学位課程）
高度教職実践専攻（教職大学院）

学生募集要項

【前期募集】

出願サイト（マイページ）への登録	令和6年8月1日（木）から
出願期間	令和6年10月15日（火）～10月21日（月）
学力検査日	令和6年11月17日（日）

【後期募集】

出願サイト（マイページ）への登録	令和6年8月1日（木）から
出願期間	令和7年1月6日（月）～1月10日（金）
学力検査日	令和7年2月2日（日）

令和6年6月
北海道教育大学

北海道教育大学大学院教育学研究科の 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

（平成 29 年 3 月 28 日制定）

（令和元年 6 月 25 日改正）

（令和 2 年 5 月 21 日改正）

（令和 4 年 3 月 24 日改正）

【大学院教育学研究科（専門職学位課程高度教職実践専攻）】

（求める学生像）

高度教職実践専攻では、学校教育現場に生起する諸課題に対して、常に課題を俯瞰的に捉えて、多角的な観点から柔軟な発想を持って解決策を見いだすことのできる、高度な専門性を育成します。

したがって、学問に裏付けされた理論と実践力を身に付け、課題解決に向けた実践的研究を進める意欲のある人を求めます。

現職教員にあっては、スクールリーダーとしての学校の経営等に関する専門的な指導力や子ども理解・教科等の専門分野に関する高度な実践的指導力の向上を志す人を求めます。また、学部直進者等にあっては、教職への強い意欲と情熱をもち、専門分野に関する高度な実践的指導力を備えた教員を志す人を求めます。

また、高度教職実践専攻の入学する前までに身に付けておくことが期待される内容は、次のとおりです。

・現職教員

子ども理解及び授業づくり、集団づくり等に関する専門的な知識・技能並びに組織の一員として協働して取り組む力

・学部直進等

子ども理解及び教科や教職等に関する基本的な知識・技能並びに学校教育に関する基本的な知識・技能

（入学者選抜の基本方針）

高度教職実践専攻の入学者選抜は、求める学生像に合致する入学者を選抜するため、小論文、口述試験及び出願書類により総合的に評価します。

令和7年度 北海道教育大学大学院教育学研究科（専門職学位課程）高度教職実践専攻
入学試験日程

	前期募集	後期募集
出願サイト（マイページ）への登録 https://e-apply.jp/ds/hokkyodai-net/	令和6年8月1日（木） 午後1時から（予定）	令和6年8月1日（木） 午後1時から（予定）
出願期間 ※出願サイトからプリントアウトした書類等の提出	令和6年10月15日（火）～ 10月21日（月）消印有効	令和7年1月6日（月）～ 1月10日（金）消印有効
受験票の出願サイトへのアップロード	令和6年11月1日（金） 午後1時以降（予定）	令和7年1月24日（金） 午後1時以降（予定）
学 力 検 査 日	令和6年11月17日（日）	令和7年2月2日（日）
合 格 者 発 表	令和6年12月6日（金） 午前9時	令和7年2月13日（木） 午前9時
入 学 手 続	令和7年3月3日（月）～3月7日（金）	

災害等による選抜方法等の変更について

この学生募集要項発行後、災害発生や治療法が確立していない感染症の拡大等に伴い、やむを得ず、試験日程や選抜方法等を変更する場合があります。

出願受付期間終了後、上記の変更を行う場合、志願者への個別連絡のほか、本学ホームページ「入試情報」(<https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/>) で変更内容をお知らせしますので、最新の情報を確認するようご注意願います。



目 次

1	募集人員・修学校	1
2	出願資格	2
3	出願手続	3
4	障がいがある等の入学志願者の事前相談	7
5	選抜方法及び配点	8
6	学力検査日程	8
7	学力検査の時間割	8
8	合格者発表	8
9	入学手続	8
10	授業料	9
11	現職教員を対象として入学料減免	9
12	長期履修学生制度	9
13	短期履修学生制度	9
14	遠隔履修プログラム	9
15	教員免許状取得特別プログラム	10
16	個人情報の取扱い	12
17	その他	12
	<試験会場位置図>	15
	<令和6年度入学者選抜実施状況>	16
	<日本学生支援機構奨学金>	16
	<大学院教育学研究科（専門職学位課程）高度教職実践専攻概要>	19
	<コース別・修学校別 開設授業科目一覧>	23
	<教員別 主な授業担当科目・専門領域等>	32

1 募集人員・修学校

【前期募集】

専攻	コース名	選抜区分・募集人員	修学校
高度教職実践専攻	学校組織マネジメントコース	現職教員 20人 学部直進者等 30人	札幌校 旭川校 釧路校 函館校
	教職キャリア形成・研修デザインコース		
	子ども理解・学級経営コース		
	教科指導・授業開発コース		
	特別支援教育コース		
	養護教育コース		

【後期募集】

専攻	コース名	選抜区分・募集人員	修学校
高度教職実践専攻	学校組織マネジメントコース	現職教員 20人 学部直進者等 10人	札幌校 旭川校 釧路校 函館校
	教職キャリア形成・研修デザインコース		
	子ども理解・学級経営コース		
	教科指導・授業開発コース		
	特別支援教育コース		
	養護教育コース		

※ 前期募集において合格者が募集人員に達しない選抜区分については、後期募集において当該人員数を上乗せして募集するため、後期の募集人員を変更する場合があります。

後期募集の募集人員は、前期募集の合格発表後に確定しますので、入試課へお問い合わせください。

【修学校別 募集コース一覧】

各修学校における、募集コース一覧を下表に示します。

○印は、各修学校で募集するコース・教科を表しています。

なお、教科指導・授業開発コースにおいては、修学校によって修了に必要な専門科目8単位を、特定の教科のみで履修できない場合があります。この場合は、他の教科・複数コース対応科目等で履修することになります。

	札幌校	旭川校	釧路校	函館校	
学校組織マネジメントコース	○	○	○	○	
教職キャリア形成・研修デザインコース	○	○	○	○	
子ども理解・学級経営コース	○	○	○	○	
教科指導・授業開発コース	国語科教育	○	○	○	○(6)※1
	社会科教育	○	○	○	○(4)※1
	数学教育	○	○	○	○(4)※1
	理科教育	○	○	○	×
	音楽科教育	○(4)※1	○	○	○(4)※1
	美術科教育	○	○	○	○(4)※1
	保健体育科教育	○(6)※1	○	○	○(2)※2
	技術科教育	○	○	×	×
	家庭科教育	○	○	○	×
英語科教育	○	○	○	○(2)※1	
特別支援教育コース	○	○	○	○	
養護教育コース	○	×	×	×	

※1 ()内の数字は各修学校で開設される当該教科の専門科目の単位数を表しています。当該教科に関して開設される専門科目が8単位未満のため、不足分は他の教科・複数コース対応科目等から履修することになります。

※2 函館校の教科指導・授業開発コース(保健体育科教育)は、一部、他の修学校の専門科目を履修します。

教育方法の特例措置

受講生の便宜に配慮して、主として夜間に開講しています。

(注1) 選抜区分の「現職教員」について

- ① 現職教員とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校（以下「小学校等」という。）に勤務している専任の教員（期限付きを除く。）で、所属する小学校等の長から推薦された者をいいます。
なお、現職教員の志望コースについては、19頁「コースのねらいと概要」を参照ください。
- ② 小学校等には、教育関係機関（教育委員会及び教育研究所等）を含みます。
- ③ 現職教員としての在職期間には、期限付きで任用された期間を含み、時間講師の期間は除きます。
- ④ 在職した年月数は、令和7年4月1日現在で算出し、月数が1か月未満の場合は、1か月に切り上げて算出します。

(注2) 選抜区分の「学部直進者等」とは、上記(注1)に規定する「現職教員」以外の者で教員免許状を有する者又は取得見込みの者で職に就いていない者をいいます。

なお、学部直進者等の志望コースについては、19頁「コースのねらいと概要」を参照ください。

(注3) 現職教員大学院生の教育課程は、学校教育現場に生起する課題の解決を目指すことを中心に編成されています。（詳細は12頁「現職教員の教育課程の特色」参照）

(注4) 現職教員大学院生の勤務校は、北海道教育大学と協議のうえ連携協力校として協力することとなります。（詳細は12頁「現職教員と連携協力校」参照）

2 出 願 資 格

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校または特別支援学校に勤務する教育職員免許状（一種）を有する現職教員又は学部段階で教員として基礎的・基本的な資質能力を習得した者（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭のいずれかの教育職員免許状（一種）を有するか、令和7年3月までに取得見込の者）で次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者および令和7年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者および令和7年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および令和7年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育施設において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の文部科学大臣の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修学年数が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号の規定による。）
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

(注1) **外国籍を有する入学志願者**は、あらかじめ出願資格の確認を行いますので、下記期日までに志望する修学校へ、「3 出願手続」の「(2) 出願書類及び入学検定料」（5頁）中の「No8履歴書（外

国籍を有する出願者用)」、「No5 卒業（見込）証明書」及び「No6 成績証明書」のそれぞれのコピーを提出してください。

【前期募集】令和6年8月16日（金）／【後期募集】令和6年10月25日（金）

(注2) **出願資格（8）の文部科学大臣の指定した者**とは、次の者等を指します。

- ・「教育職員免許法（昭和24年法律第147号）による小学校、中学校、高等学校若しくは幼稚園の教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で22歳に達したもの」
- ・「旧国立養護教諭養成所設置法（昭和40年法律第16号）による国立養護教諭養成所を卒業した者で、教育職員免許法による中学校教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有するもの」

(注3) **出願資格（9）**については、「短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設修了者」などが対象です。

これによって出願しようとする場合は、**事前に「個別の入学資格審査」を行う必要がありますので**、下記期日までに志望する修学校に問い合わせてください。

※ 資格審査の照会期限

【前期募集】令和6年8月16日（金）／【後期募集】令和6年10月25日（金）

※ 資格審査書類の提出期限

【前期募集】令和6年8月23日（金）／【後期募集】令和6年11月1日（金）

なお、個別の入学資格審査の可否については、下記期日に本人あてに通知します。

【前期募集】令和6年9月6日（金）／【後期募集】令和6年11月15日（金）

※ 学外推薦制度について

次の出願資格にすべて該当する者は、学外推薦制度を利用して出願することができます。

- ① 教職課程を有する北海道教育大学以外の大学を令和7年3月卒業見込みの者で、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭の1種免許状（教育職員免許法昭和24年法律第147号）を取得した者又は令和7年3月までに取得見込みの者
- ② 学力成績が優秀であり、北海道教育大学大学院教育学研究科のアドミッションポリシーに合致しているとして、大学長（又は学部長）が責任を持って推薦する者
- ③ 出願時の成績証明書で、優の科目の割合が全体の50%以上（4段階評価の場合は、上位2段階の評価の科目の割合が全体の50%以上）である者
- ④ 合格した場合、入学を確約できる者

3 出 願 手 続

次のとおり、インターネットにより行います。

<https://e-apply.jp/ds/hokkyodai-net/>



※マイページの登録開始、出願登録の開始は、以下に示す時期となります。

○事前に準備が必要なもの

- ・メールアドレス（出願サイト登録用）
- ・提出用出願書類等出力環境（プリンターなど）

○インターネット出願登録開始（マイページへの登録等）

（前期募集・後期募集共通）

令和6年8月1日（木）午後1時から（予定）

(1) 出願期間

【前期募集】令和6年10月15日(火)～10月21日(月)

【後期募集】令和7年1月6日(月)～1月10日(金)

上記期間、インターネットでの志願情報の登録、入学検定料の納付及び指定された出願書類の提出を行い、書類の不備等がなく受理されましたら、出願手続きが完了となります。

なお、指定された出願書類は「志望する修学校」へ提出してください。

提出に際し、持参の場合は上記期間の午前9時から午後5時まで(土・日曜日、祝日を除く)、郵送の場合は「書留・速達」郵便とし最終日の消印有効です。

(2) 出願書類及び入学検定料

次の書類のうち、No1～3, 8～10, 13は本学所定の書式です。

このうち、No2と3, 8～10, 13の書式は、本学ホームページからダウンロードしてください。

その際、行数を増減させるなど書式の改変はしないよう留意願います。

なお、ダウンロード後、必要事項を記入した書類をプリントする環境によっては、企業等の広告が出力される場合がありますので、このような広告が掲載されていない状態で提出してください。



https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/graduate/teaching_profession/exam/download.html

(注) 出願書類中、英語以外の外国語で書かれた証明書には、その日本語訳を添付してください。

No	書類等の名称	提出該当者	摘 要
1	入学願書	全 員	インターネット出願サイト(以下「出願サイト」という。)にて、必要事項入力後に生成される願書を印刷してください。(A4判片面印刷としてください)
2	志望理由書・研究計画書	〃	本学ホームページにアップされたファイル(Word形式)をダウンロードし、必要事項を記載の上、印刷してください。(A4判両面印刷としてください。)
3	履歴書	〃	本学ホームページにアップされたファイル(Word形式)をダウンロードし、必要事項を記載の上、印刷してください。(A4判片面印刷としてください。) (記入上の留意) ・履歴に空白期間がないように記入してください。 (無職の期間も記入) ・研究生歴等がある場合は、漏れなく記入してください。 ・外国籍の方は、外国籍を有する志願者用の履歴書に記入してください。(No.8参照)
4	入学検定料 (30,000円)	〃	出願サイトに表示される入学検定料決済画面に従い、手続きをしてください。 詳細は、次項の「入学検定料の支払方法について」を参照してください。 <u>※決済に係る手数料は、振込者にてご負担ください。</u>
5	卒業(見込)証明書	〃	出身大学長(大学卒業以外の者は、最終卒業学校長)が作成したものを提出してください。
6	成績証明書	〃	出身大学長(大学卒業以外の者は、最終卒業学校長)が作成し、 必ず厳封したもの を提出してください。

7	教育職員免許状（取得見込） 証明書	//	<p>免許状を授与した都道府県教育委員会が作成したもの又は教育職員免許状のコピー（裏面に単位数の記載のあるものは、裏面のコピーも含む。）を提出してください。</p> <p>なお、免許状を取得見込の場合は、出身（予定）大学が作成した教育職員免許状の取得見込証明書を提出してください。</p>
8	履歴書（外国籍を有する出願者用）	外国籍を有する出願者	<p>本学ホームページにアップされたファイル（Word形式）をダウンロードし、必要事項を記載の上印刷してください。（A4判片面印刷としてください）</p> <p>（記入上の留意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履歴に空白期間がないように記入してください。 ・研究生歴等がある場合は漏れなく記入してください。
9	所属長の推薦書	現職教員のみ	<p>本学ホームページにアップされたファイル（Word形式）をダウンロードし、以下に留意の上印刷してください。（A4判片面印刷としてください）</p> <p>学校等長が作成し、必ず厳封したものを提出してください。</p> <p>推薦理由については、以下の観点を参照していただき、可能な限り具体的事例なども挙げながら記載してください。</p> <p>観点1）協働遂行力：上司や同僚と協力して校務や校内研修などを熱心に推進しているか。</p> <p>観点2）リーダー力：校内研修や生徒指導、学年経営などで、リーダー的な役割を果たしているか。</p> <p>観点3）学校課題俯瞰力：勤務校が抱えている課題を意識して、校長・教頭などと連携して、他の教員とも力をあわせて、日々の教育実践に孜々として取り組んでいるか。</p>
10	教育実践論文・研究業績等 報告書	短期履修学生制度希望者のみ	<p>本学ホームページにアップされたファイル（Word形式）をダウンロードし、必要事項を記載の上印刷してください。（A4判両面印刷としてください）</p> <p>発表した教育実践論文・記録又は研究業績等には下記に該当するものを記載（主要なもの5点以内）し、記載した論文等の写しを添付してください。（雑誌等の論文は雑誌名及び掲載論文の該当箇所を添付）なお、英語以外の外国語で書かれた論文には、その日本語訳（要約又は抄録等）も添付してください。</p> <p>提出する教育実践記録書・論文等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著書 ・学会誌・紀要等に掲載された論文 ・商業誌等に掲載された論文・研究報告 ・教育研究集会・地区研究会等における研究報告 ・その他これらに準ずるもの

11	学位授与 (取得見込) 証明書	出願資格(2) 該当者のみ	大学評価・学位授与機構が作成した学位授与証明書を提出してください。※出願資格(1)の大学を卒業した者は、提出不要です。
		出願資格(6) 該当者のみ	学士相当の学位の取得(見込)を証明する書類(学位取得(見込)証明書等)を提出してください。
12	住民票	該当者	現に日本国内に在住している外国人は、市区町村長の発行する住民票(在留資格・期間が明記されているもの)を提出してください。
13	推薦書	学外推薦制度 志願者のみ	<p>本学ホームページにアップされたファイル(Word形式)をダウンロードし、必要事項を記載の上印刷してください。 (A4判片面印刷としてください)</p> <p>大学長又は学部長の証明印及び記載責任者の自署・押印の上、必ず厳封したものを提出してください。</p>

(3) 入学検定料の支払い方法について

出願サイトに表示される入学検定料決済画面に従い、手続きをしてください。
なお、主な納付方法は、以下の決済方法となります。

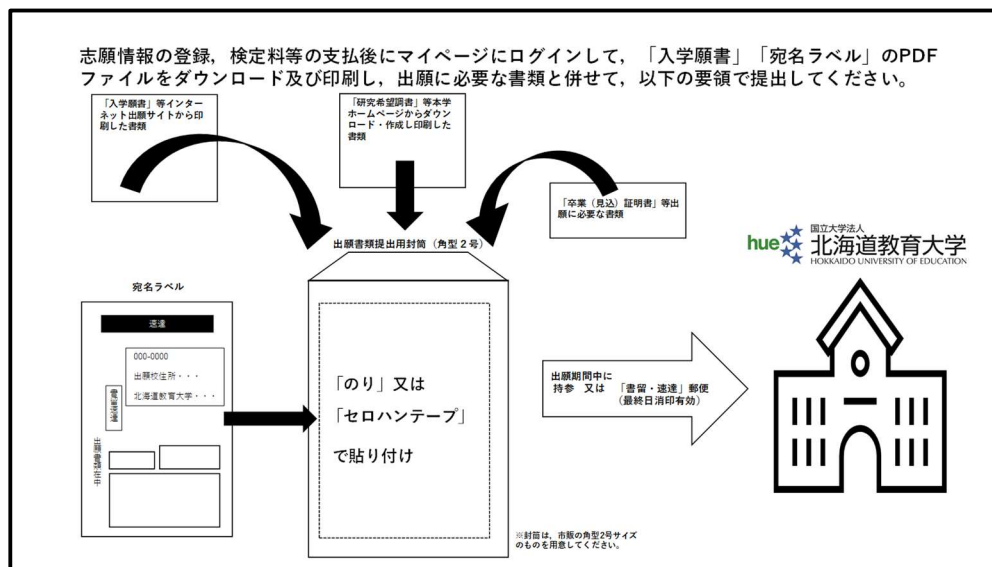
- ①クレジットカード決済 (VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS 等)
- ②ネットバンキング決済 (Pay-easy (ペイジー) 決済)
- ③コンビニエンスストア決済 (ローソン, ファミリーマート, セブン・イレブン, セイコーマート等)

※決済に係る手数料は、振込者にてご負担ください。

(4) 出願書類の印刷と提出

志願情報の登録、検定料等の支払い後にマイページにログインし、「入学願書」「宛名ラベル」のPDFファイルをダウンロードし、これらを印刷し、前記出願書類と併せて出願期間中に「**志望する修学校**」へ持参又は「書留・速達」郵便にて提出してください。(郵便の場合は、最終日の消印有効) 全ての書類が本学に到着し、不備等がないことが確認できた時点をもって出願手続完了となります。なお、インターネット出願サイトでの登録及び検定料納入が完了していても、出願書類が出願期間(消印有効日含む)後に到着した場合は受理しませんので、余裕をもって提出してください。

インターネット出願サイトで登録を行っただけでは出願手続完了となりませんので、ご注意ください。



(5) 受験票について

インターネット出願サイトにて、顔写真データをアップロードし、必要事項を入力してください。
 なお、顔写真データは、出願前3か月以内に撮影した、上半身、正面向、脱帽のものとし、
 検定料の納付、出願書類が提出されたことが確認されましたら、以下の日程で出願サイトのマイ
 ページから受験票のダウンロードが可能となりますので、これを各自印刷（A4判カラー）し、試験
 当日必ず持参してください。

【前期募集】

令和6年11月1日（金）午後1時以降

【後期募集】

令和7年1月24日（金）午後1時以降

(6) 出願先及び問い合わせ先

修学校	郵便番号	所在地	担当	電話
札幌校	002-8502	札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号	入 試 課	011-778-0652
旭川校	070-8621	旭川市北門町9丁目	教育支援グループ	0166-59-1225
釧路校	085-8580	釧路市城山1丁目15番55号	教育支援グループ	0154-44-3230
函館校	040-8567	函館市八幡町1番2号	教育支援グループ	0138-44-4370

(7) 出願に当たっての留意事項等

ア 受け付けが完了した出願書類及び入学検定料は、返還しません。

ただし、入学検定料を納入したが、出願しなかった者は、入試課入学試験グループ（電話011-778-0652）に申し出た場合には返還します。

イ 出願に当たっては、本学の教職大学院説明会にて教育課程等の説明をしていますので、参加することをお勧めします。（教職大学院説明会のご案内は、以下のURLから）



https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/graduate/teaching_profession/outline/setumeikai.html

4 障がいがある等の入学志願者の事前相談

障がいがある等の理由で、受験上及び修学上の配慮を必要とする志願者もしくは不安を感じる志願者は、出願の前に「志望校の担当課・グループ」へお申し出いただき、ご相談ください。

なお、これらの申し出は、適切な受験環境を整えるため、あるいは、入学後の修学環境を充実させることを目的にしていますので、合否判定には一切影響はありません。

申し出に基づき、詳細な相談が必要となった場合は、原則として以下のように対応いたします。

(1) 事前相談の時期

【前期募集】令和6年10月4日（金）まで／【後期募集】令和6年12月6日（金）まで

ただし、「代筆解答」希望者は、前期募集は令和6年8月23日（金）まで、後期募集は令和6年9月27日（金）までとします。

(2) 事前相談の方法

相談の内容を記載した書類（健康診断書等、必要書類添付）を提出することとし、必要な場合には、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者等との面談等を行うことがあります。

5 選抜方法及び配点

専攻	選抜方法	選抜内容	配点
高度教職実践	小論文	「教育実践」に関するもの	200点
	口述試験	提出された書類に基づき本大学院における研究計画、目的、方法、これまでの教育実践及び研究上の成果等や意欲を問います。	200点

6 学力検査日程

(1) 学力検査日

【前期募集】令和6年11月17日（日）／【後期募集】令和7年2月2日（日）

(2) 試験会場

志望した修学校の試験会場で受験してください（他の修学校の試験会場で受験することはできません）。

7 学力検査の時間割

小論文 9:00～11:00

口述試験 11:00～17:00

(注1) 受験者が多い場合は、口述試験が「17:00」を超えることがあります。

(注2) 試験開始時間は別途指示がある場合は、その指示によります。

(注3) 集合時間は、志望した修学校から別途指示します。

(注4) 口述試験は1人当たり20分程度です。

8 合格者発表

【前期募集】令和6年12月6日（金）午前9時／【後期募集】令和7年2月13日（木）午前9時

(1) 合格者の発表は、マイページ等から本人あてに通知するとともに、合格者の受験番号を本学ホームページに掲載します。

北海道教育大学専門職学位課程：高度教職実践専攻（教職大学院）ホームページアドレス



https://www.hokkyodai.ac.jp/exam/graduate/teaching_profession/index.html

※ ホームページが表示されましたら、ブラウザの更新ボタンを押してから、合格者の受験番号をご覧ください。

(2) 合格者には、入学手続きに必要な手続き等の事項を通知します。

なお、合否について、電話等による問い合わせには応じません。

9 入学手続

入学手続きシステム及び一部の書類について郵送又は持参により行います。

なお、大学からの案内はすべて入学手続きシステムから行う予定です。（大学から入学手続き書類の郵送はありません）

入学手続きの詳細（提出書類及び入学料等の納入方法等）については、合格者へお知らせします。

(1) 入学手続期間

令和7年3月3日（月）～3月7日（金）

(2) 納入金

入学料 282,000円

(注1) 上記の金額は、現行の金額であり、入学時に改定が行われた場合には、改定時から新たな

金額が適用されます。

- (注2) 入学料は、上記の入学手続期間内に納入してください。
 (注3) 納入した入学料は、返還しません。
 (注4) 減免及び徴収猶予の制度があります。詳細は、合格者あてに別途通知します。

10 授 業 料

授業料 年額 535,800 円 (前期) 267,900 円
 (後期) 267,900 円

- (注1) 上記の金額は、現行の金額であり、入学時及び在学中に改定が行われた場合には、改定時から新たな金額が適用されます。
 (注2) 前期分の授業料は、令和7年5月に口座引落の方法でお支払いいただきます。
 (注3) 減免及び徴収猶予の制度があります。詳細は、合格者あてに別途通知します。

11 現職教員を対象とした入学料減免

本学では、大学院に入学する現職教員に対する経済的支援策として、現職教員全員を対象とした入学料の半額免除を実施します。

- (注) 本制度の対象となる「現職教員」は、選抜区分の「現職教員」の定義とは異なります。詳細は、合格者あてに別途通知します。

12 長期履修学生制度

職業を有する等の事情により、定められた修業年限(2年)では、大学院の教育課程の履修が困難な者を対象とした長期にわたる履修制度があります。職業を有する等とは、有職者(正規雇用、臨時雇用を問いません)、家事、育児、介護等の事情により、フルタイム学生としての修学が困難な事情にあることをいいます。

この制度では、2年間で設定されている教育課程を4年間で上限として履修する計画を立て、長期履修学生として在籍することが可能となり、長期履修学生として認められた場合の授業料は、履修期間にかかわらず、原則として2年分の授業料の納入でよいこととなります。

長期履修希望者は、入学手続き時又は在学1年目の2月15日までに次の書類を提出し、許可を受ける必要があります。

- ① 長期履修申請書
- ② 理由書
- ③ 在職証明書又は在職が確認できる書類(職業を有する者に限る。)
- ④ 履修計画書
- ⑤ その他大学が必要と認める書類

13 短期履修学生制度

北海道教育委員会及び札幌市教育委員会からの派遣教員を対象とし、2年間で設定されている教育課程を1年間に短縮して履修する制度です。短期履修学生制度適用に当たっては、「教育実践論文・研究業績等報告書」を出願時に提出していただく必要があります。この制度適用の可否は、「教育実践研究論文・研究業績等報告書」を基に判定します。短期履修学生として認められた場合は、授業料は原則として1年分の授業料となります。また、入学前教育プログラム及び修了後フォローアッププログラムへの参加が必要です。

なお、入学後、1年間での修了が困難になった場合には、定められた修業年限(2年)への変更も可能です。この場合は、授業料は通常通りとなります。

14 遠隔履修プログラム

北海道教育委員会からの派遣教員のうち、遠隔履修を認められた場合に、原則として授業(ゼミを含む)等をオンラインで受講するプログラムです。したがって、オンラインで受講できる個人の通信環境の整備が必要となります。ただし、本学で指定した科目や行事などは対面で行いますので、指定の会場に集合しての受講となります。履修期間は、原則として2年間です。2年次については、所属校に勤務しながら必

要な単位を修得するものとします。

なお、遠隔履修プログラム学生の修学校は、本人の希望及び通学の便宜等を考慮し決定するものとします。

また、入学後、2年間で修了が困難になった場合には、長期履修学生制度への変更も可能です。本制度の詳細は、本学生募集要項の「12 長期履修学生制度」(9頁)をご確認ください。

※現在、上記遠隔履修プログラムにおける現職教員の対象者拡大を検討しています。詳細については、大学ホームページでご確認ください。

15 教員免許状取得特別プログラム

本学大学院教育学研究科(専門職学位課程)の各コースにおいて、長期在学制度を導入して教員免許状取得特別プログラムを実施しています。

本プログラムは、中学校・高等学校の教員免許状(一種)所有者で小学校教員を目指している方、幼稚園・小学校の教員免許状(一種)所有者で中学校教員を目指している方々等、学校種の違う教員免許状取得希望者に、小学校又は中学校教諭免許状(専修免許)の取得を可能にするものです。

本プログラムは、3年間で大学院の単位修得・実践論文等に加えて、小学校又は中学校教諭一種免許状に対応した学部の教職課程を履修するもので、所定の単位を修得して大学院を修了した時には、小学校又は中学校教諭専修免許状の所要資格が得られます。ただし、既存の長期履修制度とは異なるため、授業料は3年間分必要です。

出願時に取得済または取得予定である教員免許状の種類により、大学院入学後に本プログラムで取得が必要となる単位が異なりますので、本プログラムを希望する際には、取得が必要な単位数を自身で教員免許を発行する都道府県の教育委員会に確認し、必要に応じて、志望する修学校へ個別に相談することをお勧めします。(連絡先は、7頁を参照)

(1) 教員免許状取得特別プログラムの募集人数

本プログラムで取得できる免許状と受講できる学生の募集人数は、以下のとおりです。

修学校 免許状		札幌校	旭川校	釧路校	函館校
		小学校教諭一種免許状	若干人	若干人	若干人
中学校教諭 一種免許状	国語	若干人	若干人	若干人	若干人
	社会	若干人	若干人	若干人	若干人
	数学	若干人	若干人	若干人	若干人
	理科	若干人	若干人	若干人	若干人
	音楽		若干人	若干人	
	美術	若干人	若干人	若干人	
	保健体育	若干人	若干人	若干人	
	技術	若干人	若干人		
	家庭	若干人	若干人	若干人	
英語	若干人	若干人	若干人	若干人	

※ 取得できる免許状は、いずれか一つに限ります。

また、前期募集時の申請状況によっては後期の募集をしないことがありますので、後期募集で申請を希望する場合は、事前にお問い合わせください。

(2) 申請資格

前期募集及び後期募集に出願した者。ただし、次のいずれかに該当する者は申請できません。

- ① 昼間に学部の教職課程を履修できない者
- ② 取得を希望する学校種の免許状(二種又は他教科)を有する者又は令和7年3月までに取得見込みの者

(3) 申請期間

令和6年10月15日(火)～10月21日(月) ※消印有効〔前期募集の出願期間と同じ〕
令和7年1月6日(月)～1月10日(金) ※消印有効〔後期募集の出願期間と同じ〕
出願書類と一緒に提出してください。

(4) 申請先

7頁「出願先及び問い合わせ先」と同じ

(5) 問い合わせ先

北海道教育大学教育研究支援部 教育企画課
〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号
TEL：011-778-0320 FAX：011-778-0634 E-mail：g-insien@j.hokkyodai.ac.jp

(6) 受講可否の決定方法

本プログラムの受講可否の決定は、本大学院専門職学位課程の通常の入学試験とは別に、教職への関心と意欲、適性等を審査します。

なお、本プログラムの受講が不許可になっても、大学院専門職学位課程の入学者選抜試験の合格は取り消されませんが、この場合は3年ではなく、通常の修業年限(2年)となります(本プログラムによる教員免許状の取得はできません)。

1) 選考日：【前期】令和6年11月17日(日)

【後期】令和7年2月2日(日)

※各学力検査日と同日

・面接 大学院学力検査終了後(口述試験終了後)に行う。

2) 選考会場：

志望した修学校の教職大学院試験会場と同じ。

3) 選考結果発表日：【前期】令和6年12月6日(金)

【後期】令和7年2月13日(木)

※各合格発表日と同日

(7) 学生修業年限

本プログラムの学生は、修業年限を3年とします。

なお、本プログラムは中止することはできませんが、やむを得ない理由がある場合で、教員会議の審議を経て教職大学院長の許可を得たときはこの限りではなく、修学中途中で本プログラムの受講許可が取り消された場合には、通常の2年の修業年限となります。

(8) 授業料等の負担

通常の授業料相当額を在学期間の間(3年間)納入することになります。

授業料 年額 535,800円 (前期) 267,900円

(後期) 267,900円

(9) 本プログラムの授業開設

本プログラムの学生は、基本的に大学院及び学部の既存の開設科目を履修しますが、新たに本プログラムの学生だけの特別クラスを設ける科目もあります。また、本プログラムでは、小学校又は中学校教員免許状取得に必要な教育実習の履修や介護等体験の受講が可能です。

(10) 履修モデルの作成と学生の入学後の指導責任体制

本プログラムでは、大学院の各コースの学生指導の実態と履修者の個別事情に合わせた履修モデルを作成し、科目の履修方法等の学生指導に責任をもって当たります。

(11) 入学後に修得すべき単位数

- 1) 一種免許状の取得に必要な学部の単位を3年間で修得します。
- 2) 学部の教職課程で履修した単位がある場合は、修得単位数が控除される場合があります。
(自身で、教員免許状を発行する都道府県の教育委員会に確認することが必要です。)
- 3) 高等学校又は幼稚園の教員免許のみを取得している人は、社会福祉施設などでの介護等体験が必要です。

16 個人情報の取扱い

- (1) 本学は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「個人情報保護に関する基本方針」及び「国立大学法人北海道教育大学個人情報等取扱規則」を定め、個人情報の保護に取り組んでいます。関係規則等につきましては、本学のホームページをご覧ください。
- (2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格者発表、③入学手続き、④入学者選抜方法等に関する調査・研究業務、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
なお、④に関し、調査・研究結果の発表を行う場合、個人が特定できないように処理します。
- (3) 入学者の個人情報は、入学後の①教務関係業務（学籍管理、就学指導等）、②学生支援関係業務（健康管理、奨学金申請等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。
- (4) 上記（2）及び（3）の業務を行うに当たっては、業務の全部又は一部を外部の事業者へ委託することがあります。委託先に対しては、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部を提供します。

17 その他

- (1) 授業科目、教育職員免許状等については、19頁以降の「大学院教育学研究科高度教職実践専攻（専門職学位課程）概要」を参照してください。
なお、【現職教員の教育課程の特色】及び【現職教員と連携協力校】については、下記を参照してください。

【現職教員の教育課程の特色】

現職教員大学院生の場合には、学校教育現場に生起する課題を中心に据え、その解決に向けて能動的に授業に参加し、実習において解決策の実践と検証を行います。得られた成果は、当該勤務校のみならず、研究会等を通じて広く情報を発信させることとなります。すなわち、「フィールドから出発、フィールドに還元」ということを常に意識する教育課程としています。

【現職教員と連携協力校】

現職教員大学院生の教育課程では、上に述べた課題について、実践的研究や事例収集を行わせることとしています。

従って、現職教員大学院生が所属する勤務校においては、学校の業務に支障のない範囲で、大学院生の研究及び実習を行うことについて、本学と協議のうえ連携協力校として協力願うこととなりますので、所属長に充分理解を得られるよう留意願います。

- (2) 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査による、教員採用候補者名簿登録者が、本学の教職大学院へ進学する場合は、北海道・札幌市への本人の申し出により登録期間を1年間延長することができます。
(※登録期間の1年間延長：教員採用候補者名簿登録者は、通常、翌年度1年間の登録期間が有効ですが、本人の申し出により、更に1年間の延長が可能となり、2年間修学に専念することができます。なお、2年間で修了後、教員に採用されることとなります。)
- (3) 北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査において、北海道採用希望の場合、教職大学院修了者特別選考が行われ、教職大学院を修了している者又は教職大学院に在学中の者は、第一次検査が免除されます。

詳細は、北海道教育委員会へご確認ください。

(令和6年度(2024年度)の教員採用候補者選考検査より新設。札幌市採用の場合特別選考は実施されません。)

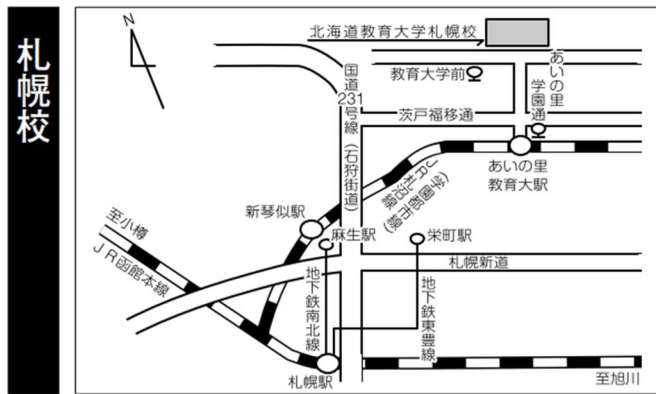
試験会場位置図

入学者選抜実施状況

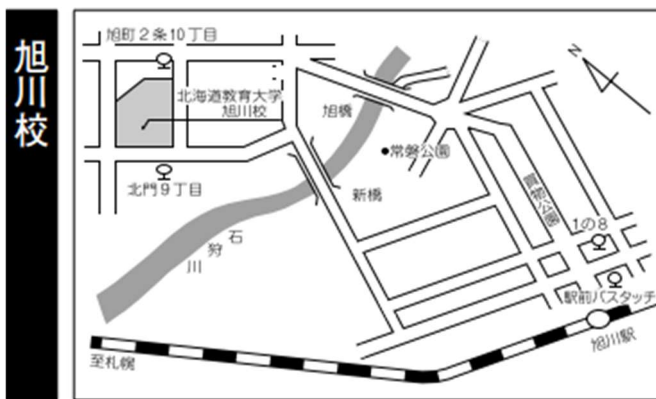
日本学生支援機構奨学金

試験会場位置図

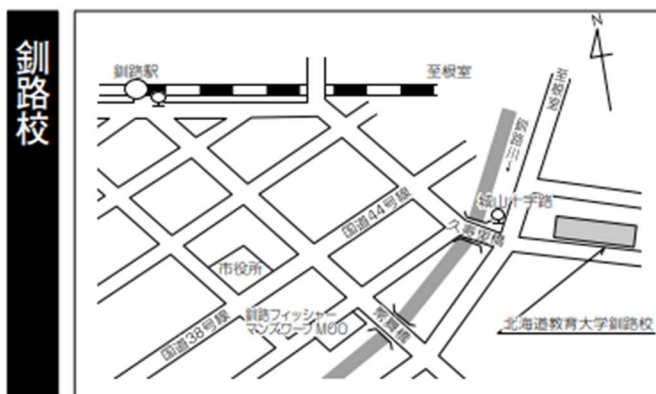
※ 運行時刻等は、各自でお調べください。



名称 北海道教育大学札幌校
 所在地 札幌市北区あいの里5条3丁目1番5号
 交通案内
 ○JR「学園都市線」
 ・札幌駅→あいの里教育大 約30分
 ・「あいの里教育大駅」から徒歩 約20分(約1.4km)
 ○地下鉄ーバス
 ・地下鉄南北線の「麻生駅」から中央バス「麻②あいの里教育大線」で約32分、「あいの里4条5丁目」又は「教育大学前」下車、徒歩2分
 ・地下鉄東豊線の「栄町駅」から中央バス「栄③栄町・教育大学線」で約27分、「教育大学前」下車、徒歩2分



名称 北海道教育大学旭川校
 所在地 旭川市北門町9丁目
 交通案内
 ○「JR旭川駅(駅前バスタッチのりば④)」から旭川電気軌道バス(⑤旭町・春光線)で15分、「旭町2条10丁目」下車、徒歩5分
 ○「1条通8丁目(1の8のりば⑭)」から旭川電気軌道バス(⑭旭町線)で15分、「旭町2条10丁目」下車、徒歩5分
 ○「1条通8丁目(1の8のりば⑭)」から旭川電気軌道バス(⑭新橋・北門線)で15分、「北門9丁目」下車、徒歩5分



名称 北海道教育大学釧路校
 所在地 釧路市城山1丁目15番55号
 交通案内
 ○JR「釧路駅」からくしろバス(③武佐線, ②別保線)で10分「城山十字路口」下車、徒歩4分



名称 北海道教育大学函館校
 所在地 函館市八幡町1番2号
 交通案内
 ○JR「函館駅」から函館バス(82系統)で約10分、「宮前町」下車、徒歩10分
 ○JR「函館駅」から函館バス(47系統)で約20分、「教育大通」下車、徒歩10分
 ○函館空港より車で約25分

令和6年度 大学院教育学研究科入学者選抜実施状況

専攻	専修	入学定員		志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
			留学生		留学生		留学生		留学生		留学生
学校臨床心理	学校臨床心理	9	—	15	—	15	—	9	—	9	—
高度教職実践	高度教職実践	80	—	70	—	67	—	66	—	63	—
合	計	89	—	85	—	82	—	75	—	72	—

※留学生数は内数で示す。

日本学生支援機構奨学金

本学では、日本学生支援機構奨学生募集について、各キャンパスで周知しています。

◇ 奨学金の種類と募集時期等（2024年度採用者）

奨学金の種類	採用の種類	募集時期	貸与月額
第一種奨学金 【無利子貸与】	定期採用	4月・9月	5万円又は8万8千円
	緊急採用	随時	
第二種奨学金 【有利子貸与】	定期採用	4月・9月	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円の5種類の中から選択
	緊急採用	随時	
併用貸与	第一種奨学金申込みの学力基準を満たしており、経済的理由があれば、第一種奨学金と第二種奨学金の両方の貸与を受けることができます。		
入学時特別増額貸与	第1学年入学者で条件を満たす者に対して、希望により貸与月額の初回振込時に10～50万円（10万単位）の金額から選択して増額貸与を受けることができます。		

【予約採用】

大学院入学前に奨学金を予約する制度です。

本学大学院に入学しようとする者に対して、令和6年8月～10月頃に申込を受け付けています。

採用候補者として決定され、本学大学院に入学した場合に採用が決定します。

【定期採用】

4月・9月頃に本学の各キャンパスにおいて申込を受け付けています。

【緊急採用】

家計の急変（主たる家計支持者の失職、破産、事故、病気もしくは死亡等。又は火災、風水害等の災害等）によって奨学金を緊急に必要とする者に対して、随時募集を行っています。

【授業料後払い制度】

大学院修士課程や専門職学位課程の在籍者が、在学中は授業料を納付せず、卒業後の所得等に応じて納付（後払い）できる制度です。これに加えて、月2万円又は月4万円の貸与を受けることもできます。

【特に優れた業績による返還免除制度】

大学院において日本学生支援機構の第一種奨学金の貸与を受けた学生で、在学中に特に優れた業績を挙げた方として認定された方は、貸与された奨学金の全部又は一部の返還が免除される制度です。

【大学院を修了し正規教員となった方の奨学金返還免除制度】

教職大学院に在籍し、教員採用選考に合格後、教職大学院修了の翌年度から正規教員として採用された方は、大学院で貸与をされた日本学生支援機構の第一種奨学金（授業料後払い制度の奨学金を含む）が全額返還免除となる制度です。

◇ 本学の奨学生数

令和6年3月1日現在

学年・種別 キャンパス		1 年		2 年		計	
		第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種
札幌校	学生数	33人		23人		56人	
	奨学生数	7人	1人	2人	1人	9人	2人
	%	24.2%		13.0%		19.6%	
旭川校	学生数	15人		10人		25人	
	奨学生数	4人	0人	0人	2人	4人	2人
	%	26.7%		20.0%		24.0%	
釧路校	学生数	15人		7人		22人	
	奨学生数	1人	2人	0人	0人	1人	2人
	%	20.0%		0%		13.6%	
函館校	学生数	5人		4人		9人	
	奨学生数	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	%	20.0%		0%		11.1%	
計	学生数	68人		44人		112人	
	奨学生数	13人	3人	2人	3人	15人	6人
	%	23.5%		11.4%		18.8%	

(学生数は令和5年10月1日現在)

大学院教育学研究科(専門職学位課程) 高度教職実践専攻 概要

コース別・修学校別 開設授業科目一覧

教員別 主な授業担当科目・専門領域等

大学院教育学研究科高度教職実践専攻 (専門職学位課程) 概要

1 目 的

学校現場における諸課題について、理論的・実践的研究を深め、教師としての使命を自覚し、学校全体を俯瞰して課題解決にあたるための高度な専門的能力及び実践力の形成を図り、子ども理解力、学習指導力、マネジメント力、連携・協働力及び実践的研究力を備えた人材を養成することを目的とします。

2 概 要

本専攻では学校教育が抱える課題が複雑化・多様化する中で、これからの教員に求められる資質能力を、子どもの成長・発達に関する理論を基盤として、児童生徒を深く理解し教育を実践する「子ども理解力」、教科内容や教科指導に関する理論を基盤として、児童生徒の深い学びをデザインする「学習指導力」、マネジメントに関する理論を基盤として、教育改革を推進する学校経営・運営を実行する「マネジメント力」、同僚、行政、地域等と連携・協力し、学校課題の解決を組織的に推進する「連携・協働力」、学校現場の教育課題を見だし、関連する教育理論を活用しながら解決方法を構想し実行する「実践的研究力」の5つに定めています。このような基盤となる資質能力の形成に加えて、理論と実践を往還し、学校全体を視野に入れながら具体的な課題を解決することを通して、教職経験に応じた自己の課題について探究し、地域や学校でリーダーとして活躍する人材を育成します。また、「学校組織マネジメントコース」「教職キャリア形成・研修デザインコース」「子ども理解・学級経営コース」「教科指導・授業開発コース」「特別支教育コース」「養護教育コース」の6コースを設定しています。各コースのねらいと概要は以下のとおりです。

コースのねらいと概要

【学校組織マネジメントコース】

ミドルリーダーとしての経験をふまえて、今後学校管理職や地域の指導的立場として活躍する経営的資質能力の形成を主眼とするコースです。学校の組織マネジメントに関する理論や高度な実践力を修得することにより、修了後は学校経営や教育行政において管理職や指導的役割を果たす人材として、学校教育に貢献していくことを目指します。教職経験が原則10年以上の現職教員を対象としています。

【教職キャリア形成・研修デザインコース】

現職教員としての実践経験を基盤として、学校や地域におけるミドルリーダーとしての力量形成に主眼を置くコースです。研修のデザインや人材育成に関する理論や実践力を修得することにより、修了後は、学校や地域の研究推進リーダー及び教育委員会等の指導者として、学校教育に貢献していくことを目指します。教職経験が原則5年以上の現職教員を対象としています。

【子ども理解・学級経営コース】

子ども理解や学級経営に関する力量形成に主眼を置くコースです。多種多様な成育歴、個性等をもった子どもや子ども集団を支援するための理論や実践力を修得することにより、修了後は、子どものキャリアやニーズに合わせた支援を行う専門家として、学校教育に貢献していくことを目指します。現職教員及び学部直進者を対象としています。

【教科指導・授業開発コース】

各教科の専門的指導及び教材開発に関する力量形成に主眼を置くコースです。多様な子どもの学びを展開する教育実践力、自らの実践を省察し、自律的に改善・向上していく力を修得することにより、修了後は、チーム学校の一員として学校教育に貢献していくことを目指します。現職教員及び学部直進者を対象としています。

【特別支援教育コース】

配慮を必要とする多様な子どもに対する専門的な支援に関する資質能力の向上に主眼を置くコースです。修了後は、障害のある子どもの生活や学習上の困難を改善・克服する専門家として、特別支援学校・学級の教育や学校等におけるインクルーシブ教育の推進に貢献することを目指します。現職教員及び学部直進者を対象としています。

【養護教育コース】

子どもの健康を支える保健・健康教育活動等の実践力に関する資質能力の向上に主眼を置くコースです。保健管理や保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動に関する専門的実践力を修得することにより、修了後は、子どもの心身の健康問題に対応する専門家として、学校教育に貢献していくことを目指します。現職教員及び学部直進者を対象としています。

3 授 業 方 法

本専攻では、教育委員会からの派遣以外の現職教員が働きながら大学院へ通うことができるよう、平日の夜間（18:00～21:10）と土曜日（9:00～17:50）の昼間に授業を開講しています。教育課程は、各コースの特色に応じて共通5領域の履修内容を重点化した「共通科目」を基礎とし、「コース科目（専門科目、プロジェクト科目、演習科目）」を積み上げる形での学修を構想しています。特に、専門科目は、各コースの専門性を深めるだけでなく、「実習科目」や「プロジェクト科目」と連携し、理論と実践を往還しながら議論を展開できるようにしています。本専攻は、クォーター（4学期）制をとっており、8回分の授業を一つのまとまりとして構成しています。これにより、授業科目のテーマを幅広く設定し、開設区分の特色に対応した専門的な授業科目を数多く履修できるようにしています。開講する授業には、4修学校をオンラインで結んだ授業科目と、修学校内で開設される授業科目があり、それぞれの授業科目の位置づけに合わせて時間割に配置し、全てのコースの学生が履修しやすいよう工夫しています。また、多くの授業において、修学校内の現職教員と学部直進者等の交流のみならず、他修学校の現職教員や学部直進者等との交流が活発に行われます。それにより、各地域の教育課題を理解することに加え、キャリアの異なる様々な学生相互の対話や交流を基盤とした協働的な学びの場を創造しています。

さらに、令和6年度入学生より、北海道教育委員会から派遣され「教育方法の特例措置としての遠隔履修派遣」を認められた現職教員においては、授業（ゼミを含む）等をオンラインで受講することを可能とし、広大な北海道で活躍している現職教員が、勤務校を拠点として修学できるよう学びの多様化を図っています。

4 実 習

本専攻では、学部直進者等もしくは現職教員に関わらず、「教育実践研究実習Ⅰ」（5単位）及び「教育実践研究実習Ⅱ」（5単位）、計10単位の実習を設定しています。ただし、現職教員（派遣教員及び派遣以外の教員）については、審査の上、「教育実践研究実習Ⅰ」の5単位分を免除することができます。本専攻における実習は、常に学校現場と大学とを行き来しながら、各自の課題を探究し、検証し、修正を加えて再度検証するなど、理論と実践の往還的な学びが実現できるよう通年で行うように配置しています。

		学部直進者	派遣以外の教員	派遣の教員
教育実践研究実習Ⅰ	履修時期	1年次	1年次	
	単位	5単位	5単位（審査の上、免除）	
	時期	5月～12月：180h 授業時間外の学習時間：45h	5月～12月：180h 授業時間外の学習時間：45h	
	内容	1日6h×30日分	1日3h×60日分	

	実習先	附属学校	勤務校		
	事前事後指導	(第1・2クォーター1.5h, 第3・4クォーター1.5h) ※実習の180hに含まれる			
教育実践研究実習Ⅱ	履修時期	2年次		1年次	
	単位	5単位			
	時期	5月～12月：180h 授業時間外の学習時間45h			
	内容	1日6h×30日分	1日3h×60日分	1日6h×30日分	
	実習先	連携協力校	勤務校	遠隔履修プログラム適用者：勤務校	短期履修学生制度適用者：勤務校(または連携協力校)
	事前事後指導	(第1・2クォーター1.5h, 第3・4クォーター1.5h) ※実習の180hに含まれる			

※派遣及び派遣以外の教員については、教育実践研究実習Ⅰを審査の上免除できる。

免除に係る審査基準は、次のとおり。

- ・教職経験が5年以上あること
- ・教育実践経験を対象化し、成果と課題を記述及び説明できること
- ・学校内外の教育実践研究活動で顕著な成果を上げていること

(1) 学部直進者等の実習

学部直進者等の実習は、原則として、「教育実践研究実習Ⅰ」を附属学校、「教育実践研究実習Ⅱ」を連携協力校で実施します(ただし、特別支援教育コースのみ、附属特別支援学校が設置されていないキャンパスにおいては、北海道立特別支援学校において両実習を行います)。「教育実践研究実習Ⅰ」は、附属学校における配属学級の指導教員へのジョブシャドーイング等を通して、学校課題を俯瞰するとともに、自らの実践課題を明確化することを目標とします。「教育実践研究実習Ⅱ」は、実習Ⅰで明確化した自己課題を踏まえ、連携協力校における配属学級の指導教員へのジョブシャドーイング等を行い、自らの課題解決のための方途を明確化することを目標とします。

(2) 教育委員会派遣以外の現職教員

教育委員会の派遣以外の現職教員の実習は、原則として勤務校で行います。勤務時間外に実習するため、1日3時間の実習を60日間にかけて行います。勤務校における自らの実践を省察しながら、新たな課題を明らかにし、課題解決を図るための具体的方策やチームで取り組む同僚性等について検討し、今後の学校改善に向けて研究を推進することを目標とします。

(3) 教育委員会派遣の現職教員

教育委員会派遣の現職教員の実習は、北海道教育委員会及び札幌市教育委員会との連携による勤務校(または連携協力校)において、原則として1年次に「教育実践研究実習Ⅱ」を実施します。

- ①短期履修学生制度適用者は、原則として1年間の修学となることから、各教員の研究テーマと勤務校(または連携協力校)の課題等を踏まえ、可能な限りテーマに即した実習先での実習を通して、課題解決を図るための具体的方策等について検討し、今後の学校改善に向けて研究を推進することを目標とします。
- ②遠隔履修プログラム適用者は、勤務校における自らの実践を省察しながら、新たな課題を明らかにし、課題解決を図るための具体的方策等について検討し、今後の学校改善に向けて研究を推進することを目標とします。

5 教育職員免許状

本専攻において、教育職員免許法及び同施行規則に定める所要の単位を修得したときは、次に示す教育職員免許状授与の所要資格を得ることができます。

ただし、取得しようとする免許状の1種免許状を有することが条件となります。

なお、教員経験年数及び他教科の免許状所持による単位修得で1種免許状を取得した者は専修免許状を取得出来ない場合があります。

教育職員免許状の種類	免許教科・領域
小学校教諭専修免許状	
中学校教諭専修免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，保健，技術，家庭，職業，外国語（英語）
高等学校教諭専修免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，工芸，書道，保健体育，保健，家庭，農業，工業，情報，外国語（英語）
幼稚園教諭専修免許状	
特別支援学校教諭専修免許状	知的障害者に関する教育，肢体不自由者に関する教育，病弱者に関する教育
養護教諭専修免許状	

学校組織マネジメントコース

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
共通科目	今日的学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	○	○	○	○	
	インクルーシブ教育の理念と教育課程	○	○	○	○	
	I C Tを活用した教育の実践と課題	○	○	○	○	
	アクティブ・ラーニングの理論と実践	○	○	○	○	
	特別支援教育の視点からの学習指導	○	○	○	○	
	子どもの発達と学習	○	○	○	○	
	教育相談の理論と実際	○	○	○	○	
	生徒指導の実際と今日的課題	○	○	○	○	
	学級・学年経営の理論と実践	○	○	○	○	
	学校危機管理の実際と課題	○	○	○	○	
	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	○	○	○	○	
	学校における組織的な人材育成と授業改善	○	○	○	○	
	コース必修科目	学校組織マネジメントの理論	○	○	○	○
		管理職に求められるリーダーシップ	○	○	○	○
		学校運営と教育法規	○	○	○	○
		教員の働き方と校務の効率化	○	○	○	○
	大学指定科目	教育実践研究へのアプローチ	○	○	○	○
		北海道の教育課題解決へのアプローチ	○	○	○	○
	北海道教育大学の特色ある領域科目	地域性を生かした総合的な学習	○	○	○	○
道徳教育の理論と実践		○	○	○	○	
プログラミング教育の実践と課題		○	○	○	○	
へき地・小規模校の実際と課題		○	○	○	○	
教育情報資源と学びの環境・指導		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅰ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅱ	○	○	○	○		
専攻科目	学校組織マネジメントの実践的展開	○	○	○	○	
	学校経営戦略の分析と策定	○	○	○	○	
	社会に開かれた学校	○	○	○	○	
	教育行政マネジメントの理論と実際	○	○	○	○	
	学校事務の職務と連携方策	○	○	○	○	
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	校務の情報化推進の理論と実践	○	○	○	○	
	校種間接続カリキュラム構築の理論と実践	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅱ	○	○	○	○	
	プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	○
教育実践研究プロジェクトⅢ		○	○	○	○	
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

教職キャリア形成・研修デザインコース

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
共通科目	今日的学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	○	○	○	○	
	インクルーシブ教育の理念と教育課程	○	○	○	○	
	I C Tを活用した教育の実践と課題	○	○	○	○	
	アクティブ・ラーニングの理論と実践	○	○	○	○	
	特別支援教育の視点からの学習指導	○	○	○	○	
	子どもの発達と学習	○	○	○	○	
	教育相談の理論と実際	○	○	○	○	
	生徒指導の実際と今日的課題	○	○	○	○	
	学級・学年経営の理論と実践	○	○	○	○	
	学校危機管理の実際と課題	○	○	○	○	
	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	○	○	○	○	
	学校における組織的な人材育成と授業改善	○	○	○	○	
	コース必修科目	教師としてのキャリア・デザイン	○	○	○	○
		学校運営におけるミドルリーダーの役割と課題	○	○	○	○
		授業研究の理論と実践	○	○	○	○
		カリキュラム・マネジメントのためのデータの分析と活用	○	○	○	○
	大学指定科目	教育実践研究へのアプローチ	○	○	○	○
		北海道の教育課題解決へのアプローチ	○	○	○	○
	北海道教育大学の特色ある領域科目	地域性を生かした総合的な学習	○	○	○	○
道徳教育の理論と実践		○	○	○	○	
プログラミング教育の実践と課題		○	○	○	○	
へき地・小規模校の実際と課題		○	○	○	○	
教育情報資源と学びの環境・指導		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅰ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅱ	○	○	○	○		
専攻科目	教師の実践研究ネットワークの形成	○	○	○	○	
	学級・授業づくりを通じた教師支援	○	○	○	○	
	学校と教員の文化	○	○	○	○	
	校内研修デザインの理論と実践Ⅰ	○	○	○	○	
	校内研修デザインの理論と実践Ⅱ	○	○	○	○	
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	校務の情報化推進の理論と実践	○	○	○	○	
	校種間接続カリキュラム構築の理論と実践	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育相談のケース・スタディ	○	○	○	○	
	生徒指導のケース・スタディ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
教育調査のための統計Ⅱ	○	○	○	○		
プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○	
	教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	○	
	教育実践研究プロジェクトⅢ	○	○	○	○	
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

子ども理解・学級経営コース

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
共通科目	今日の学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	○	○	○	○	
	インクルーシブ教育の理念と教育課程	○	○	○	○	
	I C Tを活用した教育の実践と課題	○	○	○	○	
	アクティブ・ラーニングの理論と実践	○	○	○	○	
	特別支援教育の視点からの学習指導	○	○	○	○	
	子どもの発達と学習	○	○	○	○	
	教育相談の理論と実際	○	○	○	○	
	生徒指導の実際と今日的課題	○	○	○	○	
	学級・学年経営の理論と実践	○	○	○	○	
	学校危機管理の実際と課題	○	○	○	○	
	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	○	○	○	○	
	学校における組織的な人材育成と授業改善	○	○	○	○	
	コース必修科目	子どもと教師の関係づくり	○	○	○	○
		子どもの問題行動の実際と実践的対応	○	○	○	○
		学級経営の実際と課題Ⅰ	○	○	○	○
		学級経営の実際と課題Ⅱ	○	○	○	○
	大学指定科目	教育実践研究へのアプローチ	○	○	○	○
		北海道の教育課題解決へのアプローチ	○	○	○	○
	北海道教育大学の特色ある領域科目	地域性を生かした総合的な学習	○	○	○	○
		道徳教育の理論と実践	○	○	○	○
プログラミング教育の実践と課題		○	○	○	○	
へき地・小規模校の実際と課題		○	○	○	○	
教育情報資源と学びの環境・指導		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅰ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅱ	○	○	○	○		
コース専門科目	子どもと社会	○	○	○	○	
	キャリア教育の実際と課題		○	○	○	
	授業における子どもの行動と心理	○	○		○	
	子ども理解のためのアセスメント	○	○			
	学級経営と授業づくり	○	○	○	○	
	道徳を基盤とした学級経営	○	○	○		
	現代的課題に対応した学びのコミュニティづくり	○	○	○	○	
	教育課程編成と学級経営	○		○	○	
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育相談のケース・スタディ	○		○		
	生徒指導のケース・スタディ		○	○		
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○
教育実践研究プロジェクトⅡ		○	○	○	○	
教育実践研究プロジェクトⅢ		○	○	○	○	
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目

注2) ☆……………不定期開講科目

注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

教科指導・授業開発コース（共通）

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
共通科目	今日の学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	○	○	○	○	
	インクルーシブ教育の理念と教育課程	○	○	○	○	
	I C Tを活用した教育の実践と課題	○	○	○	○	
	アクティブ・ラーニングの理論と実践	○	○	○	○	
	特別支援教育の視点からの学習指導	○	○	○	○	
	子どもの発達と学習	○	○	○	○	
	教育相談の理論と実際	○	○	○	○	
	生徒指導の実際と今日の課題	○	○	○	○	
	学級・学年経営の理論と実践	○	○	○	○	
	学校危機管理の実際と課題	○	○	○	○	
	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	○	○	○	○	
	学校における組織的な人材育成と授業改善	○	○	○	○	
	コース必修科目	授業デザインの基礎	○	○	○	○
		教科等横断的な視点に立った授業開発	○	○	○	○
		学習評価の理論と実際	○	○	○	○
		総合的な学習の時間の実践と課題	○	○	○	○
	大学指定科目	教育実践研究へのアプローチ	○	○	○	○
		北海道の教育課題解決へのアプローチ	○	○	○	○
	北海道教育大学の特色ある領域科目	地域性を生かした総合的な学習	○	○	○	○
		道徳教育の理論と実践	○	○	○	○
プログラミング教育の実践と課題		○	○	○	○	
へき地・小規模校の実際と課題		○	○	○	○	
教育情報資源と学びの環境・指導		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ		○	○	○	○	
個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅰ		○	○	○	○	
臨床的研究入門Ⅱ		○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

国語科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
専攻科目 (国語科教育)	教科教育研究の理論（国語科教育）Ⅰ	○	△	○	○	
	教科教育研究の理論（国語科教育）Ⅱ	○	△	○	○	
	教科教育研究の実際と展開（国語科教育）Ⅰ	○	○	○	○	
	教科教育研究の実際と展開（国語科教育）Ⅱ	○	○	○	○	
	教科内容の体系（国語科教育）Ⅰ	○	△	○	○	
	教科内容の体系（国語科教育）Ⅱ	○	△	○	○	
	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅰ	○				
	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅱ		○			
	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅲ			○		
	教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅰ	○				
	教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅱ		○			
	教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅲ			○		
	教科内容研究国語科教育国文学分野Ⅰ		○			
	教科内容・教材開発（国語科教育国文学分野）Ⅰ		○			
	教科内容研究国語科教育漢文学分野Ⅰ		○			
	教科内容研究国語科教育漢文学分野Ⅱ			○		
	教科内容・教材開発（国語科教育漢文学分野）Ⅰ		○			
	教科内容・教材開発（国語科教育漢文学分野）Ⅱ			○		
	教科内容研究（国語科教育書道分野）Ⅰ		○			
	教科内容・教材開発（国語科教育書道分野）Ⅰ		○			
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅢ	○	○	○	○
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

社会科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧			
		札幌	旭川	釧路	函館
社会科	教科教育研究の理論(社会科教育) I	○	○	○	○
	教科教育研究の理論(社会科教育) II	○	○	○	○
	教科教育研究の実践と展開(社会科教育) I	○	○	○	○
	教科教育研究の実践と展開(社会科教育) II	○	○	○	○
	教科内容の体系(社会科教育) I	○	○	○	
	教科内容の体系(社会科教育) II	○	○	○	
	教科内容研究(社会科教育歴史学分野) I	○	○	○	
	教科内容研究(社会科教育歴史学分野) II			○	
	教科内容研究(社会科教育歴史学分野) III		○		
	教科内容・教材開発(社会科教育歴史学分野) I	○	○	○	
	教科内容・教材開発(社会科教育歴史学分野) II			○	
	教科内容・教材開発(社会科教育歴史学分野) III		○		
	教科内容研究(社会科教育地理学分野) I		○	○	
	教科内容研究(社会科教育地理学分野) II	○			
	教科内容・教材開発(社会科教育地理学分野) I		○	○	
	教科内容・教材開発(社会科教育地理学分野) II	○			
	教科内容研究(社会科教育法律学分野) I	○	○	○	
	教科内容・教材開発(社会科教育法律学分野) I	○	○	○	
	教科内容研究(社会科教育社会学・経済学分野) I	○	○		
	教科内容研究(社会科教育社会学・経済学分野) II			○	
	教科内容・教材開発(社会科教育社会学・経済学分野) I	○	○		
	教科内容・教材開発(社会科教育社会学・経済学分野) II			○	
	教科内容研究(社会科教育哲学・倫理学分野) I	○			
	教科内容研究(社会科教育哲学・倫理学分野) II	○	○	○	
	教科内容・教材開発(社会科教育哲学・倫理学分野) I	○			
	教科内容・教材開発(社会科教育哲学・倫理学分野) II	○	○	○	
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○
	教育調査のための統計 I	○	○	○	○
	教育調査のための統計 II	○			
プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクト I	○	○	○	○
	教育実践研究プロジェクト II	○	○	○	○
	教育実践研究プロジェクト III	○	○	○	○
演習科目	実践論文	○	○	○	○
実習科目	教育実践研究実習 I	○	○	○	○
	教育実践研究実習 II	○	○	○	○

注1) △……昼間開講科目
 注2) ☆……不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

数学教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
数学	教科教育研究の理論(算数・数学科教育) I	○	○	○	○	
	教科教育研究の理論(算数・数学科教育) II	○	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開(算数・数学科教育) I	○	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開(算数・数学科教育) II	○	○	○	○	
	教科内容の体系(算数・数学科教育) I	○	○	○		
	教科内容の体系(算数・数学科教育) II	○	○	○		
	教科内容研究(算数・数学科教育代数学分野) I			○	○	
	教科内容・教材開発(算数・数学科教育代数学分野) I			○	○	
	教科内容研究(算数・数学科教育幾何学分野) I			○		
	教科内容・教材開発(算数・数学科教育幾何学分野) I			○		
	教科内容研究(算数・数学科教育解析学分野) I	○				
	教科内容研究(算数・数学科教育解析学分野) II			○	○	
	教科内容・教材開発(算数・数学科教育解析学分野) I	○				
	教科内容・教材開発(算数・数学科教育解析学分野) II			○	○	
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育調査のための統計 I	○	○	○	○	
	教育調査のための統計 II	○				
	プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクト I	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクト II	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクト III	○	○	○	○
	演習科目	実践論文	○	○	○	○
	実習科目	教育実践研究実習 I	○	○	○	○
		教育実践研究実習 II	○	○	○	○

注1) △……昼間開講科目
 注2) ☆……不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

理科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧			
		札幌	旭川	釧路	函館
コ ー ス 科 目	教科教育研究の理論(理科教育) I	○	○	○	
	教科教育研究の理論(理科教育) II	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開(理科教育) I	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開(理科教育) II	○	○	○	
	教科内容の体系(理科教育) I	○		○	
	教科内容の体系(理科教育) II	○		○	
	教科内容研究(理科教育物理学分野) I	○			
	教科内容研究(理科教育物理学分野) II		○		
	教科内容研究(理科教育物理学分野) III	○		○	
	教科内容・教材開発(理科教育物理学分野) I	○			
	教科内容・教材開発(理科教育物理学分野) II		○		
	教科内容・教材開発(理科教育物理学分野) III	○		○	
	教科内容研究(理科教育化学分野) I	○		○	
	教科内容研究(理科教育化学分野) II	○			
	教科内容研究(理科教育化学分野) III	☆			
	教科内容・教材開発(理科教育化学分野) I	○		○	
	教科内容・教材開発(理科教育化学分野) II	○			
	教科内容・教材開発(理科教育化学分野) III	☆			
	教科内容研究(理科教育生物学分野) I	○	○		
	教科内容研究(理科教育生物学分野) II	○	○		
	教科内容研究(理科教育生物学分野) III		○	○	
	教科内容・教材開発(理科教育生物学分野) I	○	○		
	教科内容・教材開発(理科教育生物学分野) II	○	○		
	教科内容・教材開発(理科教育生物学分野) III		○	○	
	教科内容研究(理科教育地学分野) I	○	○	○	
	教科内容研究(理科教育地学分野) III		○		
	教科内容・教材開発(理科教育地学分野) I	○	○	○	
	教科内容・教材開発(理科教育地学分野) III		○		
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	
	教育調査のための統計 I	○	○	○	
	教育調査のための統計 II	○			
	プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクト I	○	○	○
教育実践研究プロジェクト II		○	○	○	
教育実践研究プロジェクト III		○	○	○	
演習科目	実践論文	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習 I	○	○	○	
	教育実践研究実習 II	○	○	○	

注1) △……昼間開講科目
 注2) ☆……不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

音楽科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
コ ー ス 科 目	教科教育研究の理論(音楽科教育) I	○	○	○	○	
	教科教育研究の理論(音楽科教育) II	○	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開(音楽科教育) I	○	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開(音楽科教育) II	○	○	○	○	
	教科内容の体系(音楽科教育) I		○	○		
	教科内容の体系(音楽科教育) II		○	○		
	教科内容研究(音楽科教育声楽分野) I		△			
	教科内容研究(音楽科教育声楽分野) II			○		
	教科内容・教材開発(音楽科教育声楽分野) I		△			
	教科内容・教材開発(音楽科教育声楽分野) II			○		
	教科内容研究(音楽科教育器楽分野) I		○			
	教科内容研究(音楽科教育器楽分野) II		○			
	教科内容・教材開発(音楽科教育器楽分野) I		○			
	教科内容・教材開発(音楽科教育器楽分野) II		○			
	教科内容研究音楽科教育音楽学分野) I			○		
	教科内容・教材開発(音楽科教育音楽学分野) I			○		
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育調査のための統計 I	○	○	○	○	
	教育調査のための統計 II	○				
	プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクト I	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクト II	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクト III	○	○	○	○
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習 I	○	○	○	○	
	教育実践研究実習 II	○	○	○	○	

注1) △……昼間開講科目
 注2) ☆……不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

美術科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
コ ス 科 目	教科教育研究の理論（図画工作・美術科教育）Ⅰ	○	○	○	○	
	教科教育研究の理論（図画工作・美術科教育）Ⅱ	○	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開（図画工作・美術科教育）Ⅰ	○	○	○	○	
	教科教育研究の実践と展開（図画工作・美術科教育）Ⅱ	○	○	○	○	
	教科内容の体系（図画工作・美術科教育）Ⅰ	○	○	○		
	教科内容の体系（図画工作・美術科教育）Ⅱ	○	○	○		
	教科内容研究（図画工作・美術科教育絵画分野）Ⅰ	○	○	○		
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育絵画分野）Ⅰ	○	○	○		
	教科内容研究（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅰ		△			
	教科内容研究（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅱ			○		
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅰ		△			
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育彫刻分野）Ⅱ			○		
	教科内容研究（図画工作・美術科教育デザイン分野）Ⅰ	○				
	教科内容・教材開発（図画工作・美術科教育デザイン分野）Ⅰ	○				
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○	
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○	
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○	
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト 科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	○
教育実践研究プロジェクトⅢ		○	○	○	○	
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

保健体育科教育分野

目次へ戻る

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
コ ス 科 目	専門科目 (保健体育科教育)	教科教育研究の理論(保健体育科教育)Ⅰ	○	○	○	
		教科教育研究の理論(保健体育科教育)Ⅱ	○	○	○	
		教科教育研究の実践と展開(保健体育科教育)Ⅰ	○	○	○	
		教科教育研究の実践と展開(保健体育科教育)Ⅱ	○	○	○	
		教科内容の体系(保健体育科教育)Ⅰ	○	○	○	
		教科内容の体系(保健体育科教育)Ⅱ	○	○	○	
		教科内容研究(保健体育科教育体育学分野)Ⅰ		○		○
		教科内容・教材開発(保健体育科教育体育学分野)Ⅰ		○		○
		教科内容研究(保健体育科教育運動学分野)Ⅰ		○	○	
		教科内容・教材開発(保健体育科教育運動学分野)Ⅰ		○	○	
		保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○
		いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○
		学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○	
	学校における外国語教育の推進	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト 科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅢ	○	○	○	○
	演習科目	実践論文	○	○	○	○
	実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○
		教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

技術科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
コ ー ス 科 目	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅰ	○	○			
	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅱ	○	○			
	教科教育研究の実践と展開（技術科教育）Ⅰ	○	○			
	教科教育研究の実践と展開（技術科教育）Ⅱ	○	○			
	教科内容の体系（技術科教育）Ⅰ	○	○			
	教科内容の体系（技術科教育）Ⅱ	○	○			
	教科内容研究（技術科教育木材加工分野）Ⅰ	○				
	教科内容・教材開発（技術科教育木材加工分野）Ⅰ					
	教科内容研究（技術科教育機械分野）Ⅰ		○			
	教科内容・教材開発（技術科教育機械分野）Ⅰ		○			
	教科内容研究（技術科教育電気分野）Ⅰ	○				
	教科内容・教材開発（技術科教育電気分野）Ⅰ	○				
	教科内容研究（技術科教育栽培分野）Ⅰ	○				
	教科内容・教材開発（技術科教育栽培分野）Ⅰ	○				
	教科内容研究（技術科教育情報分野）Ⅰ	○				
	教科内容・教材開発（技術科教育情報分野）Ⅰ	○				
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○			
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○			
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○			
	幼保小の連携と生活科教育	○	○			
	学校における外国語教育の推進	○	○			
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○			
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト 科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○		
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○		
		教育実践研究プロジェクトⅢ	○	○		
演習科目	実践論文	○	○			
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○			
	教育実践研究実習Ⅱ	○	○			

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

家庭科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
コ ー ス 科 目	教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅰ	○	○	○		
	教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅱ	○	○	○		
	教科教育研究の実践と展開（家庭科教育）Ⅰ	○	○	○		
	教科教育研究の実践と展開（家庭科教育）Ⅱ	○	○	○		
	教科内容の体系（家庭科教育）Ⅰ	○	○	○		
	教科内容の体系（家庭科教育）Ⅱ	○	○	○		
	教科内容研究家庭科教育食物学分野）Ⅰ			○		
	教科内容研究家庭科教育食物学分野）Ⅱ		○			
	教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅰ			○		
	教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅱ		○			
	教科内容研究家庭科教育被服学分野）Ⅰ	○	○			
	教科内容・教材開発（家庭科教育被服学分野）Ⅰ	○	○			
	教科内容研究（家庭科教育家政一般分野）Ⅰ	○		○		
	教科内容・教材開発（家庭科教育家政一般分野）Ⅰ	○		○		
	保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○		
	いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○		
	学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○		
	幼保小の連携と生活科教育	○	○	○		
	学校における外国語教育の推進	○	○	○		
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○		
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト 科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	
		教育実践研究プロジェクトⅢ	○	○	○	
	演習科目	実践論文	○	○	○	
	実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	
教育実践研究実習Ⅱ		○	○	○		

注1) △……………昼間開講科目
 注2) ☆……………不定期開講科目
 注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

英語科教育分野

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
コ ー ス 科 目	専門科目 (英語科教育)	教科教育研究の理論(英語科教育)Ⅰ	○	○	○	
		教科教育研究の理論(英語科教育)Ⅱ	○	○	○	
		教科教育研究の実践と展開(英語科教育)Ⅰ	○	○	○	○
		教科教育研究の実践と展開(英語科教育)Ⅱ	○	○	○	○
		教科内容の体系(英語科教育)Ⅰ	○	○	○	
		教科内容の体系(英語科教育)Ⅱ	○	○	○	
		教科内容研究英語科教育英語学分野)Ⅰ	○	○	○	
		教科内容・教材開発(英語科教育英語学分野)Ⅰ	○	○	○	
		教科内容研究(英語科教育英米文学分野)Ⅰ		○		
		教科内容・教材開発(英語科教育英米文学分野)Ⅰ		○		
		教科内容研究(英語科教育英語コミュニケーション分野)Ⅰ		○	○	
		教科内容・教材開発(英語科教育英語コミュニケーション分野)Ⅰ		○	○	
		教科内容研究(小学校英語科教育分野)Ⅰ		○		
		教科内容・教材開発(小学校英語科教育分野)Ⅰ		○		
		保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり	○	○	○	○
		いじめに関する理論と指導の実際	○	○	○	○
		学校教育の現代的課題とその対応	○	○	○	○
		幼保小の連携と生活科教育	○	○	○	○
		学校における外国語教育の推進	○	○	○	○
	教育調査のための統計Ⅰ	○	○	○	○	
	教育調査のための統計Ⅱ	○				
	プロジェクト 科目	教育実践研究プロジェクトⅠ	○	○	○	○
		教育実践研究プロジェクトⅡ	○	○	○	○
教育実践研究プロジェクトⅢ		○	○	○	○	
演習科目	実践論文	○	○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目

注2) ☆……………不定期開講科目

注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

特別支援教育コース

科目区分	授業科目名	開設校一覧				
		札幌	旭川	釧路	函館	
共通 科目	共通必修科目	今日的学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	○	○	○	○
		インクルーシブ教育の理念と教育課程	○	○	○	○
		I C Tを活用した教育の実践と課題	○	○	○	○
		アクティブ・ラーニングの理論と実践	○	○	○	○
		特別支援教育の視点からの学習指導	○	○	○	○
		子どもの発達と学習	○	○	○	○
		教育相談の理論と実際	○	○	○	○
		生徒指導の実際と今日的課題	○	○	○	○
		学級・学年経営の理論と実践	○	○	○	○
		学校危機管理の実際と課題	○	○	○	○
	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	○	○	○	○	
	学校における組織的な人材育成と授業改善	○	○	○	○	
	コース必修科目	特別支援教育の教育課程と授業の在り方	○	○	○	○
		特別支援教育における教育相談と保護者支援	○	○	○	○
		特別支援教育コーディネーターの役割と課題Ⅰ	○	○	○	○
特別支援教育コーディネーターの役割と課題Ⅱ		○	○	○	○	
大学指定科目	教育実践研究へのアプローチ	○	○	○	○	
	北海道の教育課題解決へのアプローチ	○	○	○	○	
北海道教育大学の特色ある領域科目	地域性を生かした総合的な学習	○	○	○	○	
	道徳教育の理論と実践	○	○	○	○	
	プログラミング教育の実践と課題	○	○	○	○	
	へき地・小規模校の実際と課題	○	○	○	○	
	教育情報資源と学びの環境・指導	○	○	○	○	
	個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ	○	○	○	○	
	個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ	○	○	○	○	
	臨床的研究入門Ⅰ	○	○	○	○	
	臨床的研究入門Ⅱ	○	○	○	○	
コ ー ス 専 門 科 目	特別支援教育の理解と支援Ⅰ 特別支援教育の理解と支援Ⅱ 特別支援教育の理解と支援Ⅲ 特別支援教育の理解と支援Ⅳ 特別支援教育の理解と支援Ⅴ 特別支援教育のシステムと実際 現代社会と障害児・者 発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援 特別支援教育の現代的課題と教育実践 特別支援教育の実践と理論 特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅠ 特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅡ インクルーシブ教育実地研究Ⅰ インクルーシブ教育実地研究Ⅱ	○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		○	○	○	○	
		プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクト（特別支援教育）Ⅰ	○	○	○
教育実践研究プロジェクト（特別支援教育）Ⅱ	○		○	○	○	
教育実践研究プロジェクト（特別支援教育）Ⅲ	○		○	○	○	
実践論文	○		○	○	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習Ⅱ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習（特別支援教育）Ⅰ	○	○	○	○	
	教育実践研究実習（特別支援教育）Ⅱ	○	○	○	○	
		○	○	○	○	

注1) △……………昼間開講科目

注2) ☆……………不定期開講科目

注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

養護教育コース

科目区分	授業科目名	開設校	
		札幌	
共通 科目	共通必修科目	今日的学力・能力観とカリキュラム・マネジメント	○
		インクルーシブ教育の理念と教育課程	○
		I C Tを活用した教育の実践と課題	○
		アクティブ・ラーニングの理論と実践	○
		特別支援教育の視点からの学習指導	○
		子どもの発達と学習	○
		教育相談の理論と実際	○
		生徒指導の実際と今日的課題	○
		学級・学年経営の理論と実践	○
		学校危機管理の実際と課題	○
	教師のメンタルヘルスとエンパワメント	○	
	学校における組織的な人材育成と授業改善	○	
	コース必修科目	保健組織活動におけるマネジメント	○
		養護活動と保健教育	○
		養護実践の理論と方法	○
子どもの心身の健康における協働的援助		○	
教育実践研究へのアプローチ		○	
大学指定科目	北海道の教育課題解決へのアプローチ	○	
北海道教育大学の特色ある領域科目	地域性を生かした総合的な学習	○	
	道徳教育の理論と実践	○	
	プログラミング教育の実践と課題	○	
	へき地・小規模校の実際と課題	○	
	教育情報資源と学びの環境・指導	○	
	個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ	○	
	個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ	○	
	臨床的研究入門Ⅰ	○	
	臨床的研究入門Ⅱ	○	
コ ー ス 専 門 科 目	子ども・地域のアセスメントの理論と保健教育 学校医療安全と子どもの安全への実践的対応 学校における保健教育の意義と課題 カリキュラム・マネジメントを踏まえた保健教育の実際 保健組織活動とエンパワメント 学校における医学的課題と探索的研究 養護教諭の実践と研究的視点 学校医療安全とリスク・クライシスマネジメント 養護教諭の教育活動とキャリア形成 保健室経営の位置づけおよび理論と実践 生徒指導と学校カウンセリングの実際と課題 教育調査のための統計Ⅰ 教育調査のための統計Ⅱ 教育実践研究プロジェクトⅠ 教育実践研究プロジェクトⅡ 教育実践研究プロジェクトⅢ 実践論文	○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		○	
		プロジェクト科目	教育実践研究プロジェクトⅠ
教育実践研究プロジェクトⅡ	○		
演習科目	教育実践研究プロジェクトⅢ	○	
	実践論文	○	
実習科目	教育実践研究実習Ⅰ	○	
	教育実践研究実習Ⅱ	○	

注1) △……………昼間開講科目

注2) ☆……………不定期開講科目

注3) ○の科目でも不定期や集中開講となる場合があります。

教員別 主な授業担当科目・専門領域等

※担当教員については、令和6年6月1日現在のものであり、異動・退職等により変更となる可能性があります。

(1) 札幌校

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学研究科 教授 渋谷 一典	教師の実践力向上の手立てに関する研究、 教材開発に関する研究、学校経営・学級経 営に関する研究	管理職に求められるリーダーシップ 学校運営におけるミドルリーダーの役割と課題
教育学研究科 教授 姫野 完治	教師の学びやライフストーリーに関する研 究、教師の視線及びみとりを中核とした授 業研究、教師の学びを促す組織開発	今日的学力・能力観とカリキュラム・マネジメント 授業研究の理論と実践
教育学研究科 准教授 川俣 智路	児童期・思春期における心理的支援、主体 的な学習者育成のための学習環境改善（学 びのユニバーサルデザイン）	子どもの発達と学習 個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅱ
教育学研究科 准教授 小沼 豊	教育心理学、学校心理学、臨床心理学、カ ウンセリング、生徒指導、援助要請に関す る研究	学校と教員の文化 生徒指導の実際と今日の課題
教育学研究科 准教授 福島 耕平	学校現場における ICT 活用の実践的研究及 びプログラミング教育に関する研究	ICT を活用した教育の実践と課題 プログラミング教育の実践と課題
教育学研究科 准教授 前田 輪音	教育方法、教材開発、授業実践の表し方に 関する研究、社会科教育、憲法教育	授業デザインの基礎 教科等横断的な視点に立った授業開発
教育学研究科 特任教授 赤間 幸人	教育行政と学校経営に関する実践的研究、 学校教育の実際と省察に関する研究	学校事務の職務と連携方策 校務の情報化推進の理論と実践
教育学研究科 特任教授 大牧 眞一	学校経営・学級経営、生徒指導、学校の危 機管理に関する実践研究	学校危機管理の実際と課題 道徳教育の理論と実践
教育学研究科 特任教授 小野寺 基史	発達障害児等の認知・行動特性のアセスメ ントとアセスメントに基づく指導内容・方 法に関する実践的研究	インクルーシブ教育の理念と教育課程 特別支援教育の教育課程と授業の在り方
教育学研究科 特任教授 中村 邦彦	学校教育学、学校教育における望ましい学 校運営（組織マネジメント）、学級経営・ 教科経営	学校運営と教育法規 学校組織マネジメントの実践的展開
教育学部 特任教授 戸田 弘二	社会心理学、ポジティブ心理学、心理学研 究法	教育調査のための統計Ⅰ 教育調査のための統計Ⅱ
教育学部 准教授 栗野 正紀	子どもの権利を保障する教育制度に関する 研究	子どもと社会 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 准教授 佐々木 真吾	発達心理学、記憶とコミュニケーションの 発達研究、事実を聞くための面接法（司法 面接）の研究	授業における子どもの行動と心理 子ども理解のためのアセスメント
教育学部 准教授 前田 賢次	教育の内容と方法、社会認識教育	現代的課題に対応した学びのコミュニティづくり 教育課程編成と学級経営
教育学部 准教授 吉野 巖	教育心理学、認知心理学。人間の認知・理 解・記憶・思考・メタ認知に関する研究	授業における子どもの行動と心理 子ども理解のためのアセスメント
教育学部 准教授 山田 真由美	教育哲学、日本教育思想史	道徳を基盤とした学級経営 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 准教授 幸坂 健太郎	国語科指導における理論・実践の往還的研 究	教科教育研究の理論（国語科教育）Ⅰ 教科教育研究の実際と展開（国語科教育）Ⅱ
教育学部 教授 菅原 利晃	伝統的な言語文化（古典）の学習指導に関 する実践的研究	教科教育研究の理論（国語科教育）Ⅱ 教科教育研究の実際と展開（国語科教育）Ⅰ
教育学部 准教授 阿部 二郎	現代日本語における複文を中心とした文の 構造・意味の研究	個別の教育的ニーズのある子どもへの対応Ⅰ 教科内容の体系（国語科教育）Ⅰ
教育学部 教授 馬場 俊臣	現代日本語の文法、語彙・意味、文章・文 体に関する研究	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅰ
教育学部 准教授 武田 泉	現代社会における地理学の役割、地域交通 政策、地域社会環境に関する研究	教科内容研究（社会科教育地理学分野）Ⅰ 教科内容・教材研究（社会科教育地理学分野）Ⅱ
教育学部 准教授 本庄 十喜	日本近現代史、とくに戦後社会運動史、戦 後補償運動史	教科内容研究（社会科教育歴史学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（社会科教育歴史学分野）Ⅰ

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学部 教授 中川 大	分析哲学, 言語と思想の哲学	教科内容研究 (社会科教育哲学・倫理学分野) I 教科内容・教材開発 (社会科教育哲学・倫理学分野) I
教育学部 教授 佐山 圭司	ドイツを中心とした近現代ヨーロッパ倫理思想史	教科内容研究 (社会科教育哲学・倫理学分野) II 教科内容・教材開発 (社会科教育哲学・倫理学分野) II
教育学部 教授 佐々 祐之	数学教育における本質的学習環境デザインに関する研究	教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) I 教科教育研究の実践と展開 (算数・数学科教育) I
教育学部 講師 中逸 空	数学教育における授業研究を通じた教師の学習に関する研究	教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) II 教科教育研究の実践と展開 (算数・数学科教育) II
教育学部 教授 吉田 安規良	理科教育学 (特に理科の授業づくりや教材・教具に関する研究), 教師教育学 (特に初等中等教育諸学校で理科を教える者)	教科教育研究の理論 (理科教育) I 教科教育研究の実践と展開 (理科教育) I
教育学部 講師 荒谷 航平	理科教育学, 特に理科教育史の研究	教科教育研究の理論 (理科教育) II 教科教育研究の実践と展開 (理科教育) II
教育学部 教授 尾関 俊浩	雪氷物理学, 雪崩などの雪害科学	教科教育研究の理論 (理科教育物理学分野) I 教科教育研究の実践と展開 (理科教育物理学分野) I
教育学部 准教授 平 久夫	カーボンナノチューブなどの量子力学的効果が支配的な系における電気伝導特性や光吸収特性の理論的・数値的研究	教科内容研究 (理科教育物理学分野) III 教科内容・教材開発 (理科教育物理学分野) III
教育学部 特任教授 蠣崎 侑司	酵素反応を用いる生体関連物質の分析, 高感度電気化学分析法の開発, 科学教育におけるコンピュータの活用	教科内容研究 (理科教育化学分野) II 教科内容・教材開発 (理科教育化学分野) II
教育学部 准教授 菅 正彦	超微量化学種の選択的分離濃縮とその環境化学的応用および環境情報科学	教科内容研究 (理科教育化学分野) III 教科内容・教材開発 (理科教育化学分野) III
教育学部 教授 高久 元	日本および東南アジア地域の昆虫便乗性ダニ類の分類, 生物地理, 土壌性ダニ類の分類	教科内容研究 (理科教育生物学分野) II 教科内容・教材開発 (理科教育生物学分野) II
教育学部 教授 寺田 貴雄	近代日本の音楽教育史研究	教科教育研究の理論 (音楽科教育) I 教科教育研究の理論 (音楽科教育) II
教育学部 准教授 石出 和也	音楽教育学	教科教育研究の理論 (音楽科教育) I 教科教育研究の理論 (音楽科教育) II
教育学部 准教授 小林 美貴子	音楽科の教育方法および音楽鑑賞教育に関する研究	教科教育研究の理論 (音楽科教育) I 教科教育研究の理論 (音楽科教育) II
教育学部 教授 花輪 大輔	図画工作・美術の教科マネジメントの最適化に関する研究	教科教育研究の理論 (図画工作・美術科教育) I 教科教育研究の理論 (図画工作・美術科教育) II
教育学部 教授 李 知恩	美術教育に関連したより広い視野から我々の普段の生活の中に常に存在するデザインを視覚情報感性の3つのキーワードから考える。	教科内容研究 (図画工作・美術科教育デザイン分野) I 教科内容・教材開発 (図画工作・美術科教育デザイン分野) I
教育学部 教授 中島 寿宏	保健体育の実践事例を科学的に分析・検証し, これからの体育授業の課題とその解決方法を検討する	教科教育研究の理論 (保健体育科教育) I 教科教育研究の理論 (保健体育科教育) II
教育学部 准教授 佐藤 正直	技術科教育, 教材開発, イノベーション教育	教科教育研究の理論 (技術科教育) I 教科教育研究の理論 (技術科教育) II
教育学部 准教授 大矢 智	木材接合部の強度, 木材切削機構, 木材と学校教育	教科内容研究 (技術科教育木材加工分野) I 教科内容・教材開発 (技術科教育木材加工分野) I
教育学部 准教授 石川 智浩	航空宇宙工学, 制御・システム工学, 通信・ネットワーク工学, 科学教育, 教育工学	教科内容研究 (技術科教育電気分野) I 教科内容・教材開発 (技術科教育電気分野) I
教育学部 准教授 出口 哲久	ジャガイモに関する作物学的研究, 学校現場での栽培学習に資する教材の研究	教科内容研究 (技術科教育栽培分野) I 教科内容・教材開発 (技術科教育栽培分野) I
教育学部 教授 増淵 哲子	家庭科の教科論, 教科書・教育内容研究	教科教育研究の理論 (家庭科教育) I 教科教育研究の理論 (家庭科教育) II
教育学部 教授 浅野 千恵	被服の機能性, 材料特性, 文化的側面を人間の感性と科学的視点から研究	教科内容研究 (家庭科教育被服学分野) I 教科内容・教材開発 (家庭科教育被服学分野) I
教育学部 准教授 今 尚之	家庭科や社会科, 環境教育に必要な住居学, 都市・地域開発, 図書館情報学などの総合的な探求とその知見の教育実践検討	教科内容研究 (家庭科教育家政一般分野) I 教科内容・教材開発 (家庭科教育家政一般分野) I
教育学部 教授 志村 昭暢	英語授業分析と第2言語習得研究法	教科教育研究の理論 (英語科教育) I 教科教育研究の理論 (英語科教育) II
教育学部 特任教授 萬谷 隆一	小学校英語教育と小中英語教育の接続	教科教育研究の理論 (英語科教育) I 教科教育研究の理論 (英語科教育) II

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学部 准教授 内野 駿介	教室内第二言語習得，特に講師のインプット・フィードバックが果たす役割と学習者の言語知識の発達	教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅰ 教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅱ
教育学部 准教授 大賀 京子	対照統語論研究	教科内容研究（英語科教育英語学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（英語科教育英語学分野）Ⅰ
教育学部 准教授 山下 公司	発達障害の特別な支援を必要とする子どもの心理教育のアセスメントとアセスメントに基づく支援方法の実践的研究	障害のある子どもの理解と支援Ⅰ 発達障害の心理・行動特性に基づく指導支援
教育学部 教授 安井 友康	障害児・者の身体活動，健康に関する研究	現代社会と障害児・者 発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援
教育学部 准教授 池田 千紗	発達障害児の生活動作，運動の不器用さの評価と指導	特別支援教育の実践と理論 特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅡ
教育学部 准教授 齊藤 真善	発達障害の障害メカニズムと支援に関する研究	特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅠ インクルーシブ教育実地研究Ⅰ
教育学部 教授 千賀 愛	アメリカ障害児教育史，障害児教育学，特別ニーズ教育学	特別支援教育のシステムと実際 発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援
教育学部 教授 岡田 忠雄	学校の医学的課題（特に小児外科疾患関連）に対する探索的研究	学校における医学的課題と探索的研究 学校医療安全とリスク・クライシスマネジメント
教育学部 教授 山田 玲子	基礎看護学，学校看護学，救急処置	学校医療安全と子どもの安全への実践的対応 養護教諭の実践と研究的視点
教育学部 教授 渡部 基	保健教育	学校における保健教育の意義と課題 カリキュラム・マネジメントを踏まえた保健教育の実際
教育学部 准教授 岩崎 和子	養護教育学，養護実践学，養護教諭論	保健室経営の位置づけ及び理論と実践 生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題
保健管理センター 教授 羽賀 将衛	健康管理学，救急心肺蘇生法	学校医療安全と子どもの安全への実践的対応 学校における医学的課題と探索的研究

(2) 旭川校

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学研究科 教授 中澤 美明	校種間の連携・接続の実践的研究, 総合的な学習の時間のカリキュラム開発	校種間接続カリキュラム構築の理論と実践 地域性を活かした総合的な学習
教育学研究科 教授 藤川 聡	技術科の教材開発と指導と評価の在り方, 達成動機づけの原因帰属と教訓帰納に基づく認知カウンセリング	ICTを活用した教育の実践と課題 学習評価の理論と実際
教育学研究科 教授 藤森 宏明	学校教育を中心とする教育制度に関する社会学的研究	学校組織マネジメントの理論 教師としてのキャリア・デザイン
教育学研究科 特任教授 北村 善春	学び続ける学校組織づくりに向けた校内研修に関する実践的研究, 学校課題に対応するリーダーシップのあり方に関する実践的研究, 管理職の資質能力向上方策に関する実践的研究, これからの学校教育に求められる学校経営マネジメントに関する実践的研究	北海道の教育課題解決へのアプローチ 教育実践研究プロジェクト I
教育学研究科 特任教授 木下 俊吾	ヤングケアラーの把握と学校支援に関する研究, 不登校・ひきこもり, 虐待防止の支援に関する研究, 生徒指導における事例研究法の活用に関する研究, 主体的・対話的深い学びに向けた教育課程経営の研究	特別支援教育の視点からの学習指導 生徒指導のケース・スタディ
教育学研究科 准教授 永浦 拓	臨床心理学, ストレスマネジメント等を基盤とする教育の研究	子どもと教師の関係づくり 特別支援教育における教育相談と保護者支援
教育学部 教授 高橋 均	家族の教育戦略に関する社会学的研究, 教育言説に関する理論的・実証的研究	子どもと社会 教育実践研究プロジェクト I
教育学部 准教授 稲井 智義	子ども福祉施設における教育思想の形成に関する社会史研究, 幼児教育の理論と実践に関する思想史研究	子どもと社会 教育実践研究プロジェクト I
教育学部 准教授 懸田 孝一	読みの過程に関する認知心理学的研究, メタ認知に関する研究	授業における子どもの行動と心理 子ども理解のためのアセスメント
教育学部 教授 川端 美穂	共感的他者理解の生起過程に関する研究, 見ることの熟達化に関する研究	授業における子どもの行動と心理 子ども理解のためのアセスメント
教育学部 准教授 黒谷 和志	授業論および生活指導論を主領域とした教育方法研究	学級経営と授業づくり 教育実践研究プロジェクト I
教育学部 准教授 古川 雄嗣	人間存在と人間形成, 道徳的価値とその意義および根拠等に関する哲学的考察	道徳を基盤とした学級経営 教育実践研究プロジェクト I
教育学部 准教授 宮崎 拓弥	イメージ体験過程に関する認知心理学的研究, メタ認知に関する認知心理学的研究	授業における子どもの行動と心理 子ども理解のためのアセスメント
教育学部 准教授 山崎 智子	イギリスの高等教育制度に関する歴史的研究	子どもと社会 教育実践研究プロジェクト I
教育学部 准教授 水野 君平	不登校, 学校適応, いじめ, メンタルヘルス, 友人関係, 動機づけ, 貧困や偏見, 学級風土など生徒指導領域における児童生徒の教育心理学的研究	キャリア教育の実際と課題 教育実践研究プロジェクト I
教育学部 教授 上田 祐二	国語科教育におけるメディア・ICTに関する研究	教科教育研究の理論 (国語科教育) I 教科教育研究の理論 (国語科教育) II
教育学部 准教授 渥美 伸彦	小・中学校における国語科学習指導及び言語活動の研究	教科教育研究の実際と展開 (国語科教育) I 教科教育研究の実際と展開 (国語科教育) II
教育学部 教授 村田 裕和	日本近代文学の研究	教科内容研究 (国語科教育国文学分野) I 教科内容・教材開発 (国語科教育国文学分野) I
教育学部 教授 大橋 賢一	漢文学 (唐代文学)・漢文教育	教科内容研究 (国語科教育漢文学分野) I 教科内容・教材開発 (国語科教育漢文学分野) I
教育学部 准教授 西川 竜矢	書写書道教育における理論と実践の往還的研究, 書作品制作と研究	教科内容研究 (国語科教育書道分野) I 教科内容・教材開発 (国語科教育書道分野) I
教育学部 准教授 長谷川 範彰	平安・鎌倉時代の文学	教科内容研究 (国語科教育国文学分野) I 教科内容・教材開発 (国語科教育国文学分野) I

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名	目次へ戻る
教育学部 講師 西内 沙恵	意味と文法のインターフェイス研究	教科内容研究 (国語科教育国語学分野) II 教科内容・教材開発 (国語科教育国語学分野) II	
教育学部 教授 坂井 誠亮	社会科教育における学習評価論の研究	教科教育研究の理論 (社会科教育) I 教科教育研究の実践と展開 (社会科教育) I	
教育学部 准教授 植田 真夕子	社会科教育における資料活用に関する研究, 思考力育成に関する研究	教科教育研究の理論 (社会科教育) II 教科教育研究の実践と展開 (社会科教育) II	
教育学部 教授 海老名 尚	教科内容学的観点を踏まえた歴史 (日本史中世史) 学習における理論・実践の往還的研究	教科内容研究 (社会科教育歴史学分野) I 教科内容・教材開発 (社会科教育歴史学分野) I	
教育学部 教授 津田 拓郎	西欧初期中世の国制・法制・教会の研究	教科内容研究 (社会科教育歴史学分野) III 教科内容・教材開発 (社会科教育歴史学分野) III	
教育学部 教授 柘岡 宏成	英米法, 日米の司法制度に関する比較研究	教科内容研究 (社会科教育法律学分野) I 教科内容・教材開発 (社会科教育法律学分野) I	
教育学部 教授 角 一典	巨大公共事業の政治社会学・再生可能エネルギーによるまちづくりに関する研究・日本の河川をめぐる環境制御システム論	教科内容研究 (社会科教育社会学・経済学分野) II 教科内容・教材開発 (社会科教育社会学・経済学分野) II	
教育学部 教授 千葉 胤久	現象学研究, 人間の生と死に関する哲学的・倫理学的研究	教科内容研究 (社会科教育哲学・倫理学分野) II 教科内容・教材開発 (社会科教育哲学・倫理学分野) II	
教育学部 教授 谷地元 直樹	問題解決, 授業改善, 教材研究	教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) I 教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) II	
教育学部 准教授 辻栄 周平	超平面配置の代数的組合せ論	教科内容研究 (算数・数学科教育代数学分野) I 教科内容・教材開発 (算数・数学科教育代数学分野) I	
教育学部 講師 樺沢 公一	論証指導, 数学的活動, 教材研究, 問題解決型授業	教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) I 教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) II	
教育学部 教授 齋藤 幸子	位相幾何学	教科内容研究 (算数・数学科教育幾何学分野) I 教科内容・教材開発 (算数・数学科教育幾何学分野) I	
教育学部 教授 安藤 秀俊	理科の教材開発とその実践, 地域における科学教育	教科教育研究の理論 (理科教育) I 教科教育研究の理論 (理科教育) II	
教育学部 准教授 高橋 一将	諸外国の科学教育, 理科教育史	教科教育研究の理論 (理科教育) I 教科教育研究の理論 (理科教育) II	
教育学部 教授 永山 昌史	細胞の形態形成・機能発現に関する生物物理学・細胞生物学的研究	教科内容研究 (理科教育物理学分野) II 教科内容・教材開発 (理科教育物理学分野) II	
教育学部 准教授 奥寺 繁	半翅目頸吻亜目昆虫の分類学および昆虫相の解明	教科内容研究 (理科教育生物学分野) II 教科内容・教材開発 (理科教育生物学分野) II	
教育学部 准教授 佐藤 鋭一	火山の形成史, マグマ供給系の進化に関する研究	教科内容研究 (理科教育地学分野) I 教科内容・教材開発 (理科教育地学分野) I	
教育学部 教授 関口 朋彦	太陽系小天体の可視・赤外・電波波長域での観測	教科内容研究 (理科教育地学分野) III 教科内容・教材開発 (理科教育地学分野) III	
教育学部 准教授 芳賀 均	音楽科教育における評価 (問題解決評価観を中心として), 音楽鑑賞教育	教科教育研究の理論 (音楽科教育) I 教科教育研究の理論 (音楽科教育) II	
教育学部 教授 木村 貴紀	ピアノ演奏法	教科内容の体系 (音楽科教育) I 教科内容の体系 (音楽科教育) II	
教育学部 教授 杉江 光	声楽演奏法	教科内容研究 (音楽科教育声楽分野) I 教科内容・教材開発 (音楽科教育声楽分野) I	
教育学部 准教授 佐藤 淳一	管楽器演奏法	教科内容研究 (音楽科教育器楽分野) II 教科内容・教材開発 (音楽科教育器楽分野) II	
教育学部 教授 南部 正人	美術科教育, 特に作品解釈に関する研究	教科教育研究の理論 (図画工作・美術科教育) I 教科教育研究の理論 (図画工作・美術科教育) II	
教育学部 教授 大石 朋生	日本絵画の制作と研究	教科内容研究 (図画工作・美術科教育絵画分野) I 教科内容・教材開発 (図画工作・美術科教育絵画分野) I	
教育学部 准教授 岩永 啓司	彫塑, 特に実材を用いた彫刻の実技研究と教材の開発	教科内容研究 (図画工作・美術科教育彫刻分野) I 教科内容・教材開発 (図画工作・美術科教育彫刻分野) I	
教育学部 教授 板谷 厚	体育・スポーツにおける動きの習得についての研究	教科内容研究 (保健体育科教育運動学分野) I 教科内容・教材開発 (保健体育科教育運動学分野) I	
教育学部 教授 高瀬 淳也	体育教育における指導法及び教材開発の研究	教科教育研究の理論 (保健体育科教育) I 教科教育研究の実践と展開 (保健体育科教育) I	
教育学部 准教授 小谷 克彦	体育・スポーツにおける心理的諸問題についての研究, 心理力動的観点から捉えた教材開発の研究	教科内容研究 (保健体育科教育体育学分野) I 教科内容・教材開発 (保健体育科教育体育学分野) I	

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学部 教授 勝本 敦洋	技術科教育の理論と実践化にかかわる指導 内容・方法と教材開発の研究	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅰ 教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅱ
教育学部 准教授 小泉 匡弘	教育工学及び心理学を応用した技術科教育 の教育方法・教材開発の研究	教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅰ 教科教育研究の理論（技術科教育）Ⅱ
教育学部 教授 渡壁 誠	ロボットを題材とした学習の企画・指導お よび教材開発身体運動や運動障害に関する 生体力学的研究	教科内容研究（技術科教育機械分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（技術科教育機械分野）Ⅰ
教育学部 教授 川邊 淳子	学校 家庭 地域をつなぐ協働的な家庭科教 育の学びに関する研究	教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅰ 教科教育研究の理論（家庭科教育）Ⅱ
教育学部 准教授 瀬浦 崇博	食品学・栄養学・調理学の分野に関わる 基 礎的調査研究および応用研究	教科内容研究（家庭科教育食物学分野）Ⅱ 教科内容・教材開発（家庭科教育食物学分野）Ⅱ
教育学部 教授 小松 恵美子	衣生活に関する基礎研究と教材開発	教科内容研究（家庭科教育被服学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（家庭科教育被服学分野）Ⅰ
教育学部 教授 笠原 究	近年の語彙習得研究と実践への応用	教科教育研究の理論（英語科教育）Ⅰ 教科教育研究の実践と展開（英語科教育）Ⅱ
教育学部 准教授 井筒 勝信	語用論・談話機能的言語研究, 外国語学習	教科内容研究（英語科教育英語学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（英語科教育英語学分野）Ⅰ
教育学部 准教授 山田 祥一	言語学, 英語学, 機能主義的観点から得ら れた知見を学習に反映させるための文法研 究	教科内容研究（英語科教育英語学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（英語科教育英語学分野）Ⅰ
教育学部 教授 十枝内 康隆	詩学および批評理論, ならびに近代イギリ ス文学およびイギリス文化に関する理論・ 実践の往還的研究	教科内容研究（英語科教育英米文学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（英語科教育英米文学分野）Ⅰ
教育学部 准教授 金山 幸平	（小学校）英語科教育における語彙指導, 視聴教材を用いた英語指導, 英語語彙分析	教科内容研究（小学校英語科教育分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（小学校英語科教育分野）Ⅰ
教育学部 教授 片桐 徳昭	コーパス言語学, 教室ビデオコーパスの作 成, 発話語彙分析, 談話分析, 教員養成・ 教師教育への応用など	教科内容研究（英語科教育英語コミュニケーション分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（英語科教育英語コミュニケーション分野）Ⅰ
教育学部 教授 萩原 拓	発達障害特性のある人々への包括的アセス メントによるライフステージを通じた支援	障害のある子どもの理解と支援Ⅱ 障害のある子どもの理解と支援Ⅳ
教育学部 教授 片桐 正敏	発達障害の認知神経科学研究とその知見を 用いた支援法の研究, 心理アセスメントを 用いた発達・学習支援法の研究, 子どもの メンタルヘルスと発達特性に関する研究	障害のある子どもの理解と支援Ⅴ 特別な支援を必要とする児童生徒のアセスメントⅠ
教育学部 准教授 薦森 英史	限局性学習症, 発達性ディスレクシアを含 む発達障害の認知心理学的研究, 支援法及 びアセスメントツールの開発	特別支援教育のシステムと実際 障害のある子どもの理解と支援Ⅲ

(3) 釧路校

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学研究科 教授 佐々木 豊	学級・学年経営や学校経営のあり方や課題解決に関する実践的な研究	学級経営の実際と課題Ⅰ 学校経営戦略の分析と策定
教育学研究科 教授 森 健一郎	領域横断的な思考を促す小・中学校理科カリキュラムの開発、へき地・小規模校における授業実践	アクティブ・ラーニングの理論と実践 校内研修デザインの理論と実践Ⅱ
教育学研究科 教授 安川 禎亮	ストレスマネジメント教育を中心とした感情のコントロール	教育相談の理論と実際 教師のメンタルヘルスとエンパワメント
教育学研究科 特任教授 鈴木 紳一	学校経営、校内研究・研修、授業改善に関する実践的な研究	校内研修デザインの理論と実践Ⅰ 教育実践研究プロジェクトⅠ・Ⅱ
教育学研究科 特任教授 竹林 亨	学校経営、校内研究、教育課程	教育実践研究プロジェクトⅠ・Ⅱ 教育行政マネジメントの理論と実際
教育学研究科 准教授 安井 智恵	教育学、学校経営学、教育行政学、教師教育、地域とともにある学校づくりの研究	社会に開かれた学校 保護者・地域住民・関係機関等との協働体制づくり
教育学部 教授 玉井 康之	現代の子供の歪みと環境との関連性、地域教育経営、学級経営の基盤づくり、生活教育	地域性を生かした総合的な学習 へき地・小規模校の実際と課題
教育学部 教授 川前 あゆみ	へき地教育、教師教育、へき地・小規模校における実践的研究	へき地・小規模校の実際と課題 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 教授 境 智洋	主に自然素材を生かしたものづくり及び総合的な学習に関する教育内容・教材及び授業研究	学級経営と授業づくり 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 准教授 棚澤 実	へき地・小規模等の学級・学校経営に関する実践的な研究、教師の実践力向上に関する研究、道徳性の発達理論を生かした実践的研究	道徳を基盤とした学級経営 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 講師 小野 豪大	へき地・小規模校教育、比較教育学、多文化共生	へき地・小規模校の実際と課題 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 准教授 小林 淳一	教員養成、教師教育、学校教育学、質的調査法	教育課程編成と学級経営 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 准教授 宮前 耕史	民俗学、地域社会・地域文化研究、地域づくりと学校、学校と地域の連携・協働	現代的課題に対応した学びのコミュニティづくり 教育実践研究プロジェクトⅠ
教育学部 講師 木戸口 正宏	いじめ、不登校、学級崩壊の背景と臨床的・実践的対応のあり方について	キャリア教育の実際と課題 教育相談のケース・スタディ
教育学部 教授 佐野 比呂己	国語科教材研究と授業構想の連関について	教科教育研究の理論（国語科教育）Ⅰ 教科教育研究の実際と展開（国語科教育）Ⅰ
教育学部 准教授 関谷 由一	日本古典文学（上代）	教科内容研究（国語科教育国文学分野）Ⅱ 教科内容・教材開発（国語科教育国文学分野）Ⅱ
教育学部 准教授 久田 行雄	日本語学、国語学	教科内容研究（国語科教育国語学分野）Ⅲ 教科内容・教材開発（国語科教育国語学分野）Ⅲ
教育学部 講師 吉田 勉	中国思想史	教科内容研究（国語科教育漢文学分野）Ⅱ 教科内容・教材開発（国語科教育漢文学分野）Ⅱ
教育学部 教授 山元 研二	日本における社会科教育の歴史的展開、地理・歴史教育における学習指導・学習評価・教師教育	教科教育研究の理論（社会科教育）Ⅰ 教科教育研究の実際と展開（社会科教育）Ⅰ
教育学部 講師 玉井 慎也	海外における社会科教育の歴史的展開、公民教育における学習指導・学習評価・教師教育	教科教育研究の理論（社会科教育）Ⅱ 教科教育研究の実際と展開（社会科教育）Ⅱ
教育学部 教授 中村 太一	日本古代史（特に都市・交通・交易の研究）	教科内容研究（社会科教育歴史学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（社会科教育歴史学分野）Ⅰ
教育学部 教授 酒井 多加志	交通地理学（港湾および港湾背後圏に関する研究）	教科内容研究（社会科教育地理学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（社会科教育地理学分野）Ⅰ
教育学部 特任教授 浅利 祐一	憲法の人権論。特に、教育法、少年法、児童虐待、子どもの権利条約等を素材にして子どもの人権について研究している	教科内容研究（社会科教育法律学分野）Ⅰ 教科内容・教材開発（社会科教育法律学分野）Ⅰ
教育学部 教授 早勢 裕明	問題解決的な学習における教師のかかわり	教科教育研究の理論（算数・数学科教育）Ⅰ 教科教育研究の理論（算数・数学科教育）Ⅱ

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学部 講師 大滝 孝治	教科教育学, 数学教育学	教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) I 教科教育研究の理論 (算数・数学科教育) II
教育学部 教授 和地 輝仁	行列とベクトルに関する実践的研究	教科内容研究 (算数・数学科教育代数学分野) I 教科内容・教材開発 (算数・数学科教育代数学分野) I
教育学部 教授 関谷 祐里	多次元分割表解析	教科内容研究 (算数・数学科教育解析学分野) I 教科内容・教材開発 (算数・数学科教育解析学分野) I
教育学部 講師 黒川 友紀	非線形波動方程式の解の解析	教科内容研究 (算数・数学科教育解析学分野) II 教科内容・教材開発 (算数・数学科教育解析学分野) II
教育学部 准教授 中山 雅茂	教育方法, 教材開発に関する研究	教科教育研究の理論 (理科教育) I 教科教育研究の理論 (理科教育) II
教育学部 講師 長根 智洋	生命領域における教材開発とその実践的研究	教科教育研究の理論 (理科教育) I 教科教育研究の理論 (理科教育) II
教育学部 教授 中川 雅仁	低温物性	教科内容研究 (理科教育物理学分野) III 教科内容・教材開発 (理科教育物理学分野) III
教育学部 教授 伊原 禎雄	両生類の基本的な生活史の解明, 外来哺乳類の効果的管理方法についての研究	教科内容研究 (理科教育生物学分野) III 教科内容・教材開発 (理科教育生物学分野) III
教育学部 教授 松原 尚志	新生代層の層序に関する研究 新生代貝類の分類・古生物地理に関する研究, 地学教材開発に関する研究	教科内容研究 (理科教育地学分野) I 教科内容・教材開発 (理科教育地学分野) I
教育学部 准教授 中西 紗織	能におけるわざの習得に関する研究	教科教育研究の理論 (音楽科教育) I 教科教育研究の実践と展開 (音楽科教育) I
教育学部 教授 小野 亮祐	18世紀ドイツの音楽教育についての歴史的研究	教科教育研究の理論 (音楽科教育) II 教科教育研究の実践と展開 (音楽科教育) II
教育学部 教授 鴨川 太郎	声楽発声・各国オペラ・各国芸術歌曲の研究	教科内容研究 (音楽科教育声楽分野) II 教科内容・教材開発 (音楽科教育声楽分野) II
教育学部 教授 佐々木 宰	図画工作, 美術科における教材・指導法・カリキュラム研究, アジアの美術教育研究	教科教育研究の理論 (図画工作・美術科教育) I 教科教育研究の理論 (図画工作・美術科教育) II
教育学部 教授 福江 良純	彫刻各素材による制作・造形理論研究	教科内容研究 (図画工作・美術科教育彫刻分野) II 教科内容・教材開発 (図画工作・美術科教育彫刻分野) II
教育学部 教授 越川 茂樹	スポーツの存在様態に関する教育人間学的研究	教科教育研究の理論 (保健体育科教育) I 教科教育研究の理論 (保健体育科教育) II
教育学部 准教授 山本 悟	技の効果的な指導方法の開発に関する発生運動学的研究	教科内容研究 (保健体育科教育運動学分野) I 教科内容・教材開発 (保健体育科教育運動学分野) I
教育学部 准教授 土岐 圭佑	現代的課題をテーマにした家庭科教育の理論的・実践的研究	教科教育研究の理論 (家庭科教育) I 教科教育研究の理論 (家庭科教育) II
教育学部 教授 野村 卓	食育・食農教育に関する教材研究	教科内容研究 (家庭科教育食物学分野) I 教科内容・教材開発 (家庭科教育食物学分野) I
教育学部 教授 鎌田 浩子	家庭・生活経営及び消費者教育に関する研究	教科内容研究 (家庭科教育家政一般分野) I 教科内容・教材開発 (家庭科教育家政一般分野) I
教育学部 准教授 鈴木 健太郎	英語教育, 第二言語習得, 英語語彙習得・指導	教科教育研究の理論 (英語科教育) I 教科教育研究の理論 (英語科教育) II
教育学部 准教授 梶本 颯士	生成文法理論に基づく統語論と意味論	教科内容研究 (英語科教育英語学分野) I 教科内容・教材開発 (英語科教育英語学分野) I
教育学部 教授 小野川 文子	特別支援教育 (肢体不自由児教育, 病弱児教育), 寄宿舎教育, 障害児とその家族の生活問題に関する研究	障害のある子どもの理解と支援 V 現代社会と障害児・者
教育学部 教授 小淵 隆司	児童理解とその援助・臨床発達心理学, 家族援助論	発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援 特別支援教育の現代的課題と教育実践
教育学部 准教授 戸田 竜也	特別支援学級・学校の教育内容研究, 教育相談と多職種連携の研究	障害のある子どもの理解と支援 I 特別支援教育のシステムと実際
教育学部 准教授 半澤 礼之	教育心理学, 青年心理学	教育調査のための統計 I 教育実践研究プロジェクト I

(4) 函館校

担当教員職・氏名	担当教員専門領域	主な授業担当科目名
教育学研究科 教授 加賀 重仁	学校経営・校内研修等に関する実践的研究	学校における組織的な人材育成と授業改善 教員の働き方と校務の効率化
教育学研究科 教授 永澤 篤	子どもの問題行動に対応した生徒指導・教育相談に関する実践的研究, 総合的な学習の時間の指導法等に関する実践的研究	子どもの問題行動の実際と実践的対応 総合的な学習の時間の実践と課題
教育学研究科 教授 杉本 任士	行動分析学に基づく学校経営, 学級・学年経営, ポジティブ行動支援に関する研究	学級・学年経営の理論と実践 学級経営の実際と課題Ⅱ
教育学研究科 准教授 菱田 一哉	いじめ被害低減, 行動変容, 発達支持的教育相談	学校教育の現代的課題とその対応 いじめに関する理論と指導の実際
教育学部 教授 木村 育恵	教師文化研究, ジェンダーと教育研究	教育実践研究プロジェクトⅠ 教育調査のための統計Ⅰ
教育学部 准教授 山口 好和	授業研究の方法論, 現代的な課題に対応した教材・カリキュラム開発, 教育実践分野におけるメディア・ICT活用	キャリア教育の実際と課題 授業における子どもの行動と心理
教育学部 講師 長尾 悠里	小規模特任校, 学校統廃合に関する研究	教育実践研究プロジェクトⅠ 子どもと社会
教育学部 准教授 奥田 秀巳	道徳教育, 教育哲学	教育実践研究プロジェクトⅠ 道徳を基盤とした学級経営
教育学部 講師 渡邊 信隆	学校経営, 教師の職能発達, 教師の子ども認知研究	キャリア教育の実際と課題 現代的課題に対応した学びのコミュニティづくり
教育学部 特任教授 内藤 一志	国語教育史, 古典教育	教科教育研究の理論(国語科教育)Ⅰ 教科教育研究の理論(国語科教育)Ⅱ
教育学部 講師 野崙 雄太	社会科教育, 法教育	教科教育研究の理論(社会科教育)Ⅰ・Ⅱ 教科教育の実際と展開(社会科教育)Ⅰ・Ⅱ
教育学部 教授 石井 洋	開発途上国における算数・数学教育の質的改善に関する研究, 算数・数学科の学習評価に関する研究	学級経営と授業づくり 教科教育研究の理論(算数・数学科教育)Ⅰ
教育学部 准教授 長尾 智絵	幼児の音楽表現における歴史的・実践的研究	教科教育研究の理論(音楽科教育)Ⅰ 教科教育研究の理論(音楽科教育)Ⅱ
教育学部 准教授 牧野 香里	芸術一般, 絵画, 芸術実践論(日本画)	教科内容研究(図画工作・美術科教育絵画分野)Ⅰ 教科内容・教材開発(図画工作・美術科教育絵画分野)Ⅰ
教育学部 教授 吉村 功	体育・スポーツでの心理面に関する研究, 基本的な運動技能向上のための教材開発の研究	教科内容研究(保健体育科教育体育学分野)Ⅰ 教科内容・教材開発(保健体育科教育体育学分野)Ⅰ
教育学部 准教授 石森 広美	英語科教育の授業設計と評価, 英語科教育における異文化理解・国際理解教育, CLIL, GCE/GCED	教科教育研究の実際と展開(英語科教育)Ⅰ 教科教育研究の実際と展開(英語科教育)Ⅱ
教育学部 教授 五十嵐 靖夫	特別な支援を必要とする子どものアセスメントと教育的支援	障害のある子どもの理解と支援Ⅲ 発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援
教育学部 教授 北村 博幸	発達障害児の特性に応じた授業作りと授業改善の研究	障害のある子どもの理解と支援Ⅱ 発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援
教育学部 教授 細谷 一博	知的障害児の典型発達児の相互交渉に関する実践的研究	障害のある子どもの理解と支援Ⅰ 発達障害の心理・行動特性に基づく指導と支援